



Title	＜資料紹介＞豊原商工会議所逐次刊行物総目次：樺太商工業者の活動解明の手がかりとして－
Author(s)	竹野, 学; Takeno, Manabu
Description	本稿は、戦前日本の植民地の一つであった樺太の中心地、豊原町（1937 年以降は市）に設立された豊原商業会議所（1923～28 年）・豊原商工会議所（1928～43 年）・樺太商工経済会（1943～45 年）が発行した逐次刊行物について、筆者が収集調査した所蔵状況と、筆者が作成した各号記事の総目次とを提示する資料紹介である。本逐次刊行物は、ほとんどの号が目次のない新聞形態で発行されたために、所蔵状況があきらかになっただけでは、必要な記事にすぐにアクセスすることは困難である。有効に利用するためには、その記事内容を別途把握できる必要がある。そこで、総目次を広く公開することで、本逐次刊行物により利用しやすい状態にして、今後の樺太史研究の活発化をはかる一助としたいというのが本稿の意図である。全国各機関に点在して所蔵されている本逐次刊行物は、全てを合わせると通号の97%がカバーされていることになる。これらを容易に通観出来るようになることで、昨今進展が著しい在外日本人経済団体史研究から漏れ落ちており、かつ職業別人口構成の大きさにもかかわらず、従来の樺太史研究ではほとんど注目されてこなかった在樺太中小商工業者の活動実態の解明が可能になろう。また、戦時下での情報秘匿により極端に刊行物が少なくなる1940 年代の樺太史研究にとっても、貴重な情報を提供する資料となるだろう。
Citation	経済学研究, 55(1), 95-128
Issue Date	2005-06-09
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/5278
Type	departmental bulletin paper
File Information	ES_v55(1)_06.pdf



<資料紹介>

豊原商工会議所逐次刊行物総目次

——樺太商工業者の活動解明の手がかりとして——

竹 野 学

1. 日本植民地研究における本資料の意義

本稿で紹介するのは、戦前日本の植民地の一つであった樺太の中心地、豊原市（1937年の市制施行までは町）に設立された商工会議所が発行していた逐次刊行物（1923年12月～1945年4月。以下「本資料」と略記）である¹⁾。樺太には1922年の商業会議所法施行まで、大泊町・豊原町・真岡町に私設の任意団体として商業会議所が存在していたが、同法の施行によりこれらは解散し、改めて同法に基づいて大泊（1922年）、豊原・真岡（1923年）に商業会議所が設立された。さらに1928年の商工会議所法施行によりこれらは商工会議所に改称され、この後新設された知取町（1930年）、恵須取町（1938年）、敷香町（1939年）を加えた合計6つの商工会議所が樺太に設立された。またこれら商工会議所の連絡協調にあたる組織として樺太商工会議所連合会が作られ、この他に任意団体の商工会が落合、留多加、本斗、内幌、野田、泊居、珍内、名好、塔路の各町に設立されていた。そして、上記の各商工会議所・商工会は、1943年の商工経済会法施行により豊原を本部とする樺太商工経済会へと改組されることとなる。

以上が樺太における商工業者団体の変遷であるが、このうち豊原商工会議所は主たる建議・

陳情先である樺太庁の膝元にあり、会員構成や組織規模の点からも名実ともに樺太を代表する中心的な商工業者団体であった。この点は表1の産業別人口の推移からもあきらかである。時代が下るにつれて他産業が興隆してくるが、長らく樺太における商業従事者は、最大多数の農業につぐ地位を占めていた。特に「本資料」の大半が刊行されている1930年代は在樺太商業人口中で豊原が順位をあげていく時期であり、豊原の職業別人口でも商業が最大多数となる時期でもある。これに多くの中小工業者が含まれる工業を加えた場合、樺太の商工業で豊原の占める大きさが確認出来るだろう。また後述するように逐次刊行物がほぼ揃って残されているのも豊原商工会議所のみであり、樺太の商工業者の動向を検討するには、まずは豊原商工会議所こそが分析の俎上にあげられるべきものと考ええる。そしてその際には、「本資料」は大きな手がかりを与えるものになるだろう。

近代日本の対植民地移民の全体的な特徴の一つとして、「中小商工業者の膨大な存在」が指摘されている²⁾。これら商工業移民が移住先で設立した在外邦人経済団体の役割については研究（以下「団体研究」と略）が近年本格的に進展した。書物に限れば、①木村健二『在朝日本人の社会史』（未来社、1989年）、②波形昭一

1) なお本稿では時期による団体名称の変更を踏まえつつも、煩雑さをさけるために商業会議所時代・商工経済会時代も一括して豊原商工会議所と呼ぶことにする。

2) 金子文夫「第一次大戦後の対植民地投資」（柳沢遊・岡部牧夫編『展望日本歴史20 帝国主義と植民地』東京堂出版、2001年、133頁。初出は『社会経済史学』第51巻第6号、1986年3月）。

表 1 樺太における市町村・職業別人口順位

単位：人						
1935年	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	
	総数	農業	商業	工業	水産業	その他有業者
	322, 475	48, 038	32, 854	19, 522	15, 659	12, 095
①	豊原町35, 390	敷香町6, 341	豊原町7, 401	大泊町2, 784	本斗町1, 972	敷香町2, 068
②	大泊町27, 965	清水村3, 230	大泊町5, 855	恵須取町2, 401	長濱村1, 537	豊原町1, 564
③	敷香町27, 385	落合町2, 513	敷香町3, 978	敷香町2, 054	蘭泊村1, 252	知取町1, 436
	④豊原町2, 490		④豊原町1, 854		豊原町0	
1940年	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	
	総数	農業	工業	鉱業	商業	その他有業者
	398, 838	43, 482	28, 392	28, 121	26, 234	15, 411
①	豊原市38, 606	敷香町4, 720	恵須取町3, 659	塔路町6, 584	豊原市5, 129	敷香町2, 227
②	恵須取町35, 115	恵須取町3, 470	豊原市3, 535	名好村6, 217	大泊町4, 609	落合町1, 014
③	塔路町28, 599	豊原市3, 356	落合町3, 022	三濱村3, 846	恵須取町2, 224	知取町 995
	豊原市5			⑤豊原市901		

注) その他とは、1935 年は表記されていない鉱業、交通業、公務・自由業、家事使用人以外の有業者であり、1940 年は、水産業、交通業、公務・自由業、家事使用人以外の有業者である。豊原のみ、上位 3 位に入っていない場合も欄外に数値を記した。ただし 20 位以内に入っていなかった場合は、順位を省略している。

出所) 『昭和 10 年樺太庁統計書』40-41 頁、『昭和 15 年樺太庁統計書』32-33 頁、より作成。

編著『近代アジアの日本人経済団体』（同文館、1997 年）、③柳沢 遊『日本人の植民地経験』（青木書店、1999 年）、④柳沢 遊・木村健二編『戦時下アジアの日本経済団体』（日本経済評論社、2004 年）などが代表的な研究としてあげられる。①②③は日本植民地研究において、「植民地に生きた人々の活動や暮らしへの着目」を強く意識した 1990 年代からの植民地研究の新潮流として、あるいは「植民地研究と移民史研究とを総合し、植民地（勢力圏）の日本社会の形成と変容を分析する視角」として評価されている³⁾。また②は「検討対象としては、台湾、朝鮮、サイパン、満州、奉天、天津、上海、香港、タイ、シンガポールなどの、戦前期の日本の対外進出地域の商業会議所をほぼ網羅的にカバーしており、優れた業績と評価できる」と中間組織研究の立場からも高い評価を受けている⁴⁾。1930 年代までの時期を扱った同書に続き、

この共同研究のメンバーが、対象地域を限定しつつ 1940 年代の時期について著したのが④である。同書もこれまで手薄であった戦時下の在外邦人経済団体と戦時経済統制との関連を地域毎に深く追究しており、「団体研究」を一層進展させた文献といえよう。

ところで上記②の執筆にあたって結成された「在外経済団体研究会」は、各地の商工会議所刊行物の収集・調査を行い、その成果を『在外日本人経済団体刊行物目録』（アジア経済研究所、1997 年）としてまとめている。またそれと並行して収集された逐次刊行物についても、幸野保典「戦前期東アジアにおける在外日本人経済団体逐次刊行物目録」（『アジア資料通報』第 38 巻第 2 号、2000 年 4 月）として発表している。この両目録で所蔵状況などが整理された在外邦人経済団体の諸刊行物は、基本的資料として上記諸研究をはじめとする「団体研究」の進展を支えていると言ってよいだろう。しかし②④においては樺太が対象外となったことも影響してか、上記両目録でも「本資料」を含め、在樺太商工会議所刊行物については必ずしも網羅的であるとは言い難い。つまり「団体研究」

3) 今泉裕美子「多様化する日本植民地研究」（『別冊歴史読本 46 日本史研究最前線』2000 年）150 頁、前掲柳沢・岡部編書、10 頁、130-131 頁。

4) 松本貴典「工業化過程における中間組織の役割」（『社会経済史の課題と展望』有斐閣、2002 年）268 頁。

の進展の中で、樺太は研究面でも資料整理面でも一種空白の状態に置かれたままなのである⁵⁾。

筆者はこれまで戦前期樺太の農業移民・農業政策について、主に樺太農家経済の分析を軸に検討し、それを通じてこれまでの樺太農業史研究の見直しを進めてきた。その過程で樺太の農業開発と当地の商工業者には見過ごせない深い関係があることを認識し、それを確認するために1997年から樺太の商工会議所刊行物の収集に努めてきた。この過程において2004年9月17・18日に北海道大学で開催された「旧植民地資料ワークショップ」に参加したことは、筆者にとって大きな刺激となった。植民地資料の保存と利用をめぐって、国内外多数のアーキビスト・植民地研究者と議論を交わしたことは、筆者にとって得難い経験であった。そこで特に考えさせられたのは、次の指摘であった。それは、資料所蔵機関の整理進展に比して、ある一定の視点から各機関所蔵の資料を横断的に利用している、研究者側からのフィードバックが欠落してことについての指摘であった。すなわち、今後利用の側面を考慮した資料整理が必要であることを考えると、研究者側も植民地資料の整理・利用について積極的な関与が必要であろう、というのである。常日頃各機関が所蔵する植民地資料を利用する立場の者として、これには大いに考えさせられるところがあった。この直後、本資料などを利用して筆者が進めていた樺太の商工業者の活動に関する研究を、「2004年度日本移民学会ワークショップ」(2005年3月26・27日、於・京都大学)で発表する機会が与えられた。このことは、「団体研究」における樺太の穴を埋める機会であると同時に、「旧植民

地資料ワークショップ」から学んだことをも実践する機会ではないかと思われた。つまりこれを期に、これまでは研究作業の一環として私的に作成していた「本資料」の所蔵状況と逐次刊行物の総目次とを公表することで、今後の「団体研究」進展のための資料提供を図ると同時に、「団体研究」という視点で、資料を利用する立場から植民地資料の整理を実践してみる絶好の機会ではないかと考えたのである。

また、樺太関係資料をめぐる現状からもこうした試みは必要と考える。樺太関係資料は、全国各機関における旧植民地資料の整理の進展に加え、サハリンに残されている樺太庁文書についてもその全貌が明らかになりつつある⁶⁾。しかし、こうした樺太関係資料を網羅的に扱った総合目録は北海道総務部行政資料室編『樺太関係文献総目録』(1970年)が唯一であり、その後のアジア経済研究所図書資料部編『旧植民地関係機関刊行物総合目録』(1973-81年)でも樺太編は刊行されることはなかった。全国各機関で旧植民地資料の整理や目録作成が進展するのはまさにその時期からであって、いまや30年前とは比べものにならない分量の、国内外各地に散在する樺太関係文献の所在が明らかになっている。今後樺太史研究を一層深化させていくためにも、これらを総括する新たな樺太文献総目録の作成が必要と思われる。本稿は今後の目録作成につなげる準備的作業でもある。筆者が今回本稿を発表するに至ったのは以上のような理由からである。

2. 豊原商工会議所逐次刊行物の変遷と総目次

さて、豊原商工会議所が発行した逐次刊行物は表2に示したように、①『豊原商業会議所報』→②『豊原商工会議所報』→③『豊原商工新報』→④『商工時報』→⑤『豊原会議所時報』→⑥

5) 堅田精司『旧樺太内国貿易史』(『北海道地方史研究』臨時増刊17, 1971年)はこれまでの樺太研究史において貿易・商業の面を重視した注目すべき研究であるが、樺太の中小商工業者への関心はあまり払われておらず、そのため商工会議所への言及や商工会議所刊行物の利用も見られない。

6) 井潤 裕「サハリン州公文書館における日本語文書」(『アジア経済』第44号第7号, 2003年7月)。

表 2 豊原商工会議所逐次刊行物所載リスト

		豊原商業会議所報	豊原商工会議所報	豊原商工新報	商工時報	豊原会議所時報	樺太商工経済会報
	通巻	1~6	7~21	22	23?~93	94~125	126~143?
所蔵機関	北海道大学	1~6	9~15		78~80, 82~88, 90~93	94~102, 104	126~133, 135~143
	小樽商科大学		14~15		25~39, 41, 43~50, 52, 54~71, 73~74, 76, 78~83	95~101	127, 129~130, 132~133, 135~143
	滋賀大学		8~15, 18~21	22	24~36, 38~45, 84, 87, 90~93	94~101, 103, 105~125	126~133, 135~142
	山口大学		7~15				
	福島大学						126~127, 130~131, 136, 139~140
	大分大学				28~44, 46~51, 53~62, 64~73, 75~76, 78~83, 85~88, 90~93		
	東京商工会議所				88~90, 92~93	94~125	
	所在不明		16~17		23, 77		134

出所) 筆者作成。

『樺太商工経済会報』と誌名が変遷する。以下誌名変遷を元に、草創期 (①②)、1930・40年代 (③④⑤)、戦時下 (⑥) と三つの時期に区分する。この順をたどりながら、「本資料」の総目次を提示しつつ、記事から窺える樺太商工業者の活動について若干の指摘をしていくことにしたい。なお、商工業者の活動自体の検討は、別稿において展開する予定である。

なお総目次の凡例は以下の通りである。見出しが複数ついている記事の場合は : で区切っている。また番号に渡って連載のある継続的な記事については大見出しを【】で括った。署名記事の執筆者や講演・発表などは () で括って見出しの最後に付してある。同一記事内の並列は / で区切っている。また頁数に比して記事件数が多いことを考慮し、かつ紙幅の関係もあって、掲載頁の記載は省いた。本逐次刊行物は、初期の冊子体の時期は目次が記載されているためそれを転載している。しかし、大部を占める新聞体では個々の目次自体が存在せず、総目次の作成にあたっては記事の見出しを一件一件拾うことが中心的な作業となった。この見出しの取捨選択は筆者の判断によるものである。したがってありうべき誤りは全て筆者の責任である。このように、以下に記載する総目次は、冊子体での目次と新聞体での記事見出しとを合わせたものであることを予め断っておきたい。

(1) 草創期の活動と記事内容 (①②)

1923 年に商業会議所が創設され、逐次刊行物の発行も始まる。当初は一冊平均 50 頁の冊子体 (26×19cm) で年に 1, 2 冊刊行された。これは団体名の改称により①から②へと変わった後もしばらく踏襲された。ただし徐々に冊子のページ数が減っていき、確認出来る範囲では 18 号から③以後に続く新聞体 (39×27cm) に形態が変わる。また月 1 回の発行にも変わる。この変化の理由については、欠号もある関係から現時点では不明である。開設直後の 1920 年代から 1930 年代前半にかけては商工会議所の積極的な陳情・建議活動が窺える。特に島内のインフラ整備を求める陳情・建議が多い時代であったといえるだろう。「支那人苦力」使用禁止 (5 号) や朝鮮からの安価な焼酎の移入制限を求める陳情 (17 号) は、「帝国」内部におけるヒト・モノの流れの活発化と、樺太商工業界とが決して無縁ではなかったことを示している。また、冊子体の時期には詳細な議事録も掲載されている。これにより、設立当初の時期における豊原の商工業者の利害関係やその調整過程が「本資料」から明白に浮かび上がってくる。新聞雑誌などの刊行がまだ数少なく、この時期の樺太の島内事情を掴むには『樺太日日新聞』に頼ることしか出来ない現状を考えると、極めて資料的価値が高いと言えるだろう。

①『豊原商業會議所報』

通巻第1號 (1923.12.30) /全53+12頁

▼詔勅▼發刊の辭▼【當會議所錄事】議員選舉記録/第一回議員會議/創立費決算書/大正十二年度収支豫算/經費賦課徴収/第一回役員會/第二回役員會/第三回役員會/定款/第一回職員臨時議員總會/第四回役員會/處務細則/會計規則/給與規則/社員表彰規程/第五回役員會/特別納全部規程/臨時特別調査委員會▼書記長會議▼金融▼商況▼聯合會議案▼議員任免▼豊原米商組合會▼製材組合創立總會▼樺太商業會議所聯合會議▼全國商業會議所聯合會決議▼關東震災ト當會議所▼關東震災義捐金▼商取引紹介▼【雜錄】▼視察團來往▼本社來訪者▼圖書寄贈▼震災關係諸法令▼【論叢】ピルブローカー銀行トハ何ソヤ▼統計

通巻第2號 (1924.10) /全56+20頁

▼卷頭語▼論談▼【本會議所錄事】▼全島書記長會議▼樺太商業會議所聯合會▼全國書記長會議▼全國商業會議所臨時聯合會▼集會一束▼金融及商況▼祝辭及弔詞▼商取引照會▼【雜錄】▼經濟統計▼【附錄】樺太一斑

通巻第3號 (1925.6) /全62+14頁

▼論談▼【本會議所錄事】▼書記長會議▼全國商業會議所事務協議會▼陳情建議▼稅務相談部記事▼祝詞及弔詞▼産業狀況▼會社異動及商工組合▼集會一束▼事務協議會▼商取引照會▼【餘錄】支那苦力問題/樺太島民大會/樺太模擬島會▼【附錄】殖民地及海外商業會議所一覽表/書記局斷語▼經濟統計

通巻第4號 (1925.12.30) /全74+9頁

▼賀牋▼歳末ノ辭▼【本會議所錄事】第五回議員總會/臨時總會/第十五回役員會/第十六回役員會/第十七回役員會/第十八回役員會/第十九回役員會/第二十回役員會/大正十三年度經費収支決算/大正十四年度追加豫算/大正十三年度事業報告▼稅務相談部記事▼議員選舉錄▼調査:交通系統調査▼議員ノ任免▼陳情及建議▼【全島書記長會議】▼第二回樺太商業會議所聯合會▼稅制整理委員會▼第一回商工従業員表彰式▼第一回計算競技會▼第一回ストープ實驗即賣會▼第一回店頭裝飾競技會▼列車運轉時間變更ニ關スル回答▼祝辭及弔詞▼小樽視察團來豊歡迎會▼旅館營業者へ注意▼議員職員出張▼商況:十二月▼集會一束▼視察團來訪▼名士ノ來

訪▼商取引照會▼【雜錄】中央サイダー抽籤會/大野商事社長抽籤會/講演會/樺太清酒品評會▼【餘錄】樺太拓殖協會豊原支部ト拓殖案▼統計

通巻第5號 (1926.12.5) /全47+27頁

▼【資料】賣買仕切書に關する大審院の判決/商品界の前途▼御挨拶▼【錄事】定時議員總會/臨時議員總會/役員會/大正十五年度經費賦課徴収方法/大正十五年度經費収支豫算/大正十四年度經費決算/財産目錄/大正十四年度事業報告/議員職員ノ異動/議員職員ノ出張/集會一束▼【彙報】▼新設會社▼編輯餘滴▼經財統計

通巻第6號 (1927.12.18) /全48+34頁

▼【資料】景氣恢復期は今一段と深刻味を帶てから▼【錄事】定時議員總會/特殊事業報告/大正十五年昭和元年度經費追加更生豫算/昭和二年度經費収支豫算/役員會/大正十五年昭和元年度經費収支決算表/大正十五年昭和元年度事業成績報告書/議員選舉錄▼【彙報】印刷税法ノ改正/諸會社移動/昭和二年上半期商況▼經濟統計

②『豊原商工會議所報』

通巻第7號 (1928.6) /全29+25頁

▼【錄事】臨時總會/第十回定時議員總會/豊原商工會議所昭和三年度經費賦課徴収方法/昭和三年度經費収支豫算案/役員會/各部會/臨時總會/陳情ノ部/現金デー設定/印紙稅法判例/集會一束/諸會社移動▼經濟統計

通巻第8號 (1929.4) /全30+34頁

▼豊原商工會議所定款▼昭和二年度事業成績報告書▼昭和二年度經費収支決算書▼【錄事】總會ノ部/役員會ノ部/各部會/陳情ノ部▼【彙報】第二回豊原實業聯合運動會經過報告/同各商組參加組合セ/ストープ實驗即賣會/網走視察團/宇都宮市議員來豊/人事/藍綬褒章御下賜祝賀會/祝詞, 祝辭, 弔辭/諸會社移動/各會社拂込狀況▼經濟統計

通巻第9號 (1929.11.15) /全50+24頁

▼豊原商工會議所稟告▼大川貴族院議員ノ講演▼樺太事業界ノ内情▼昭和三年度事業成績報告書▼昭和四年度經費収支豫算▼昭和三年度經費収支決算▼【錄事】總會ノ部/役員會ノ部/各部會ノ部/陳情ノ部▼【雜錄】日誌大要/豊原商工

會議所補缺選舉/商況並ニ金融/諸會社移動/製材協定價格/島
内既設發電所/祝辭弔辭▼經濟統計

通卷第10號 (1930.5.10) /全28+17頁

▼商工會議所事業▼議員補缺選舉錄▼總會ノ部▼役員會ノ
部▼各部會ノ部▼組合長會議ノ部▼理事會ノ部▼陳情ノ部
▼議員役員及顧問ノ異動▼昭和四年度末現在議員役員顧問
▼第五回師窓競技會▼島産フレッツ製菓登録權侵害ノ件▼
各地展覽會出品▼昭和五年度賦課徵收方法並收支豫算表▼
廉價市場ニ關スル調査▼昭和四年度下半年商況並ニ金融▼
【雜錄】大要日誌/祝辭並ニ弔辭/豊原共左組合料金▼石炭消
費高調表:昭和四年度▼統計ノ部

通卷第11號 (1930.10.28) /全31+33頁

▼【資料】店頭販賣ノ技術 (倉本長治氏) /小賣店ノ廣告
(室田久良二氏) ▼【錄事】昭和四年度事業成績報告/昭和
四年度經費收支決算/議員總會/役員會/部會/陳情▼【彙報】
各種事業/昭和五年度上半年商況/全金融/日誌大要/祝辭/諸會
社移動▼經濟統計

通卷第12號 (1931.6) /全33+28頁

▼會議所事業▼自給自足ノ獎勵▼選舉成績▼議員選舉錄▼
各總會/役員會/各部會/各會議▼定款一部改正▼昭和六年度
賦課徵收方法同豫算/同追加徵收方法並ニ追加豫算書▼各種
陳情▼【雜錄】

通卷第13號 (1931.10) /全30+23頁

▼會議所事業▼大川平三郎氏經濟問題講演會▼【錄事】總
會役員會部會▼昭和五年度收支決算表▼各種陳情▼優良勤
績従業員調査▼【雜錄】▼各地視察團往來▼統計

通卷第14號 (1932.4) /全20+21頁

▼【會議錄事】總會並ニ役員會各部會▼昭和七年度收支豫
算表▼各種陳情▼【雜錄】▼諸會社移動▼諸統計

通卷第15號 (1932.9) /全10+19頁

▼【會議所錄事】總會/役員會各部會▼【彙報】各種陳情/雜
錄/昭和六年度收支決算表▼諸會社移動▼諸統計

通卷第16號 欠

通卷第17號 欠

通卷第18號 (1934.2.5) /全6頁

▼商工豊原の活路▼反産運動に商工省の態度決定:小賣商人
保護に販賣管理委員會▼商工業者各位に!! 商店公休日は來
る十八日▼【一月中の日用品小賣特價】二分二厘の落下▼
會議所建物使用料半減方陳情▼従業員欄の新設:どなたもお
投稿下さい▼第廿三回役員會:一月八日午後一時於會議所▼
【財界の動き】警戒色濃き新春市況と今後の經濟界動向/樂
觀を許るさぬ海外情勢/國內は依然膨脹財政中心/見逃せぬ機
構變革の兆▼經濟史を彩る商權擁護運動!▼豊原商工會議所
を近く町の中央に新築:會議所創設以來十有一年:近く借家住
居を精算か▼時潮▼第廿五回議員總會:一月十五日午後一時
於會議所▼(図) 景氣はどう動くか▼景氣はどうなるか▼
第廿六回議員總會:一月二十日午後一時於會議所▼【商店講
座】商店の冗費に就いて

通卷第19號 (1934.3.5) /全4頁

▼商工業者の死活問題となる産業組合の全貌▼【豊原町小
賣物價】漸次騰貴▼【知取小賣物價】▼【眞岡小賣物價】
▼眞岡出荷組合愈よ成立▼大泊出荷組合第一回拂込み▼從
業員欄の新設:どなたにも御投稿下さい▼統計事務委託に付
き樺商聯合會より陳情▼直營の廢止を更に運動!▼丸市豊原
魚菜卸賣市場創立總會▼【財況】米國の平價切下げ/産金國
内法有法案▼森林王國に此の矛盾:資材供給不正に北海道よ
り移入▼樺太觀光協會:近く成立▼民業壓迫の實相▼定期航
空路を樺太で延長:貴衆兩院へ請願書提出▼金融機關の設
立:豊商經濟部會で▼豫算變更總會:二月廿五午後一時於豊原
商工會議所▼豊商の有權者數:三八八名▼「商店公休日」の
木札:申込次第配布不参加者は是非加入!▼全國各地の博覽會た
より▼【商店講座】新小切手並新手法に就て▼三月の商
店公休日は來る十八日

通卷第20號 (1934.4.13) /全4頁

▼【所説】危機に立つ小商工業者▼【豊原町小賣物價】前
年に比し三分の騰貴▼【眞岡小賣物價】▼【知取小賣物
價】▼愈々中小商工者の救済策を樹立:但し隣道商工課の調
査開始▼中小商工振興の建議案可決さる:衆議院本會議上程
▼日滿電信料引下げ斷行▼本年度の豊原の勞金 豊原太子會
で協定▼元豊生病院建物賣拂再入札▼文房具商組合創立:於

會議所▼喜多元樺太廳長官死去に付弔電▼【財界】ナチスの産業統制/日英會商の決裂と其後▼廳當局は速に商業組合法を施行せよ（小林會頭）▼時潮▼知取會議所議員改選▼メートル法實施五ヶ年延期▼災禍の函館を救へ:義捐金募集▼【事業課彙報】事業成績:三月▼（表）銀行營業概況/金利/銀行營業概況/爲替取扱高/金利/信用組合事業概況/金利/市内郵便局扱高

通巻第21號（1934.5.31）/全4頁

▼商工各組合の設立斡旋 統制經濟確立の急務:事務局で本格的に斡旋▼原木の供給難緩和陳情:豊原製材組合で▼豊原小賣物價:前年に比し四分七厘の騰貴▼反産運動対策 農, 商省で折衝:近く具体案を樹立▼北海道樺太各地商工會議所:豫算及賦課率調▼【録事】▼商賣繁昌の秘訣:營業改善座談會:需要者の聲を聞く:於會議所▼主要商工會議所に勞銀調査を命令:新興産業も加へて調査範圍を擴大す▼全島理事會議:昭和九年四月三十日午後一時▼趣味豊かな島根の旅▼聯合大賣出會▼豊原アンモナイト同好會:第一回例會▼集會一束▼【事業課彙報】事業成績:四月中▼（表）北門貯蓄銀行營業概況/金利/北海道拓殖銀行營業概況/爲替取扱高/金利/信用組合事業概況/金利

(2) 1930・40年代の活動と記事内容(③④⑤)

草創期の冊子形態での刊行から、確認出来る範囲では②の18号に新聞体での発行に変わる。これを受け継いだまま、1934年に誌名自体を変えたのが③である。③が1号のみの発行だったのか、あるいは2号続いたのかは、欠号の関係から不明である。同年すぐに④へと誌名変更されるが、この④が最も号数が多く、「本資料」全号の大半を占めている。さらに、1941年に形態は継承したままで⑤へと誌名変更される。いずれも商工會議所の機能に大きな変化が生じての変更というわけではなく、誌名変更の理由は定かではない。また、新聞体が変わることで、発行が月1回になる点は踏襲されている。さらにこの期間には、冊子体では掲載されていた商工會議所自体の活動報告に関する記事や樺太の經濟情勢に関する統計記事が徐々に減少し、代わりに法律・制度の解説記事や戦時下での精神

運動関係記事が増え、総じて広報誌的性格が強くなってくる。その原因として、商工會議所自体に関する情報が『事業成績報告書』や『統計年報』として別途刊行され始めたことが考えられる。もっとも、これらの刊行物については1935・1936年度分が小樽商科大学・滋賀大学・東京商工會議所に断片的に所蔵されているだけで、いつからこうした形態に分離し、いつまで刊行が続けられたのか、また書名はそのまま継続されたのかなど不明な点が多い。これら『事業成績報告書』や『統計年報』の発見・収集は今後の課題である。

この時期の記事は、昭和恐慌の影響を受けて、商工業者の窮乏と資金供給の問題が紙面を埋めることが多くなる。まず目立ってくるのは、商工業界の窮状を訴え、産業組合の活動を批判する記事である。それに関連して、樺太での商業組合法施行を求める記事も多く載せられている。そしてこれらを受ける形で、会頭自らが誌面で商工業者の求める施策を関係各方面に訴える、というパターンでの誌面構成が、1937年頃までの特徴としてあげることが出来るだろう。加えて1937年には、樺太庁と樺太商工會議所連合の共同で商業実情調査が行われる。その過程で浮き彫りになった在樺太商工業者の窮乏を如何に克服すべきかという問題や経営改善法の提案なども、1937年頃の記事の多くを占めるようになる。

ところが、日中戦争勃発に伴う戦時統制の進展により、消費規正や物資配給という新たな問題が生じることとなる。それらに商工業者は如何に対応すべきかという記事も1937年以後増え始める。また、商工業者の応召や転業に関する制度紹介の記事も徐々に掲載されるようになり、1940年頃には、戦争遂行のための精神運動と、各種統制法令の通達・解説が誌面の多くを占めることになる。こうした中で1938年、会頭自らが天津での見本市に赴き、樺太物産の売り込みをはかるなど、中国への販路拡大を目指す動きもみられたが(67・68・70号)、統制

経済の進展の中でそのような試みは途絶したものとみられ、続報はないままに終わる。

一方以上の動きと軌を一にして、陳情・建議に関する記事がほとんど見られなくなる。陳情・建議活動の縮小は、経済統制の進展につれて他地域でも見られた現象でもある。しかし、商工会議所自体の活動を記載していると思われる『事業成績報告書』が未発見のため、建議・陳情自体が減少したのか、あるいは記事として掲載するのを控えるようになったのかは、今のところ不明である。また、1940年以降の商業報国会や商業組合の設立により、これらの会報も同一紙面に組み込まれて、商工会議所が関わった活動が広範に紹介されるようになる。加えて1938～42年の年頭の号には、それまではなかった樺太庁長官の寄稿が載せられるようになる。その他樺太庁の各部課の担当者、裁判所判事、警察署長や憲兵隊隊長など、行政のあらゆる面からの寄稿が増えてくるのも、この時期の特徴である。これらは統制経済の進展の過程で、商工会議所と樺太庁との関係が強化されていく面を象徴していよう。このように、1937年を境に、豊原商工業者をとりまく環境が一変したことが、「本資料」の記事の流れから明瞭に浮かび上がってくるだろう。

③『豊原商工新報』

通巻第22號 (1934.7.10) /全6頁

▼【時潮】商業組合法施行の急務を再び提唱す(豊商會頭 小林隆平) ▼【六月の小賣物價】前月に比し六厘の下落 昨年に比し五分七厘の騰貴 ▼商工省に於ける中小商業の振興策:中小商業振興調査委員會設置 ▼豊原商工會議所六月の行事:【録事】 ▼樺太觀光協會創立總會:會長には高島内務部長:各支部の負擔額決定 ▼弘前驛主催の樺太觀光團:七月十一日來豊 ▼會議所賦課金:滞納者に督促手数料徴収 ▼産業組合の發祥地英國にも反産 ▼一等五百圓 日滿産業大博覽會ポスター圖案懸賞募集:富山市主催 ▼愛知縣の見本市 ▼旭川の日滿興産博:於小学校並常磐公園 ▼製材組合代表議員 仙崎覺次郎氏就任 ▼酒田市の全國土産品展覽會 ▼商工會議所の機能發揮:照會應答は昨年の倍 ▼樺電の需要家へのサービス:電球引

換料金値下 ▼豊原アンモナイト同好會好評 ▼集會一束 ▼夜の豊原を明るくせよ:「明るい店にお客が集る」 ▼中小商工業者更生振興策を廳當局は速に樹立せよ:樺聯總會に於て(豊商鈴木經濟部長の演説) ▼市勢の繁榮は商工業の振否如何にある(豊商 小田島常議員) ▼【經營一夜】 ▼本島經濟史を彩る樺商聯合會總會:六月廿五日於豊原役場 ▼果然問題となつた豊商提案の官廳購買組合の進出:特典廢止取扱品の制限 ▼放送のタベ 札幌放送局:八月廿三日樺太始政記念日:小唄「四季ノ樺太」 ▼營業經費の大半を爲す島内各鐵道運賃低減方促進を要望す:樺聯總會に於て(豊商出口交通部長演説) ▼「廳鐵」營業成績順調:大正十二年度に比し昭和八年度は約二十萬圓の黒字 ▼豊原町に於ける水産物取扱商:二十三萬七千餘圓 ▼落合の商人よ何處ひ行く:消費組合取扱高:王子二十五萬圓 樺鐵六萬圓 ▼知取王子の消費組合:年額四十六萬圓に及ぶ ▼刑務所の授産事業:年額約一萬六千圓 ▼【財界大勢】獨逸外債のモラトリアムを宣す:兌換準備率三%弱:貿易の入超に萬策盡きて非常手段 ▼明年度豫算編成方針 赤字公債四億圓限度を目標:國防費の著減期待薄:軍需インフレの持續 ▼七月の公休日 來る廿九日 ▼どなたにも手がるに出来る:家庭染色講習會:於豊原商工會議所七月十日より四日間

通巻第23號 欠

④『商工時報』

通巻第24號 (1934.8.27) /全4頁

▼中小商工業者の死活問題(法学博士 渡邊鐵藏) ▼小賣店救済策(小林會頭) ▼樺太産業組合三ヶ年計畫は中庸穩健に:將來中小商業者を壓迫せざる方策の樹立方建議 ▼中商工業者の自轉車は履物に等しい:課税するは不合理低減方町に要望 ▼觀光客誘致 ポスター圖案募集規程:夏の樺太宣傳ポスター冬の樺太宣傳ポスター ▼商品見本證明書使用上の注意 ▼今月の話題 ▼中小商工業標準簿記並原價計算法懸賞應募當選者發表 ▼樺太に於ける工業の助長發達に關する決議 ▼豊原商工會議所:七月の部會と役員會 ▼【財界大勢】世界主要國本年上半期に於ける貿易の趨勢:金本位離脱國の輸出旺盛 ▼小賣店の平均壽命は何年か ▼天候不順のため米價の躍騰す:懸念さるゝ飯米飢饉對策に苦慮する政府 ▼時代を知ること ▼經濟往來 ▼金融ト物價

通巻第25號 (1934.9.27) /全4頁

▼跛行する拓計景氣 購買力は増えたか? 騰る勞銀と微騰な物價▼マネキン人形▼第九回飾窓裝飾競技會褒状授與式舉行:名譽賞 吉田屋呉服店▼飾窓競技會に商店員の豫想投票:一等高尾商店方高尾安郎君▼商工会議所の新設▼各地の催しもの▼不正競争と組合の力▼議員尾野眞一氏:九月八日午前九時長逝▼裁判所公示:【八月の登記】▼樺太唯一の株式会社 近藤商店開業:堅實味ある經營振で好評▼商工業改善策研究會に優良都市視察團募集:來る十月十日より一週間隣道北海道を視察▼觀光客誘致 ポスター圖案再募集:夏冬樺太宣傳ポスター:一等二十圓二等十圓三等五圓夏冬各等級▼會議所とは一体どんなところ▼【金融と物價】九月の物價▼視察團の落した金全島で約十萬圓:豊原だけ三萬圓▼【八月の事業課彙報】▼【經營一夜】▼一度買つて貰うたら年に三回位は?▼絶大なサービス:店主の挨拶は店の能率に有効▼(表) 市内銀行信用組合營業概況/爲替取扱高/市内郵便局扱高/過去三ヶ年ニ於ケル市内勞銀比較表/昭和八年度樺太全島煙草消費高調

通巻第26號 (1934.10.30) /全4頁

▼營業方法は近代的に精神は昔の商人に歸れ:北海道優良都市を視察して(小林會頭の談)▼取引のお問合せには先づ商工会議所を御利用下さい▼第九回ストーブ展並實驗即賣會の後を顧みて▼【豊原町小賣物價】前年に比し三分二厘前月に比し二分二厘騰貴▼ストック品見切即賣會▼樺太の株式界とその將來(近藤株式店豊原支店長 嵯峨榮勝氏)▼【經濟往來】關西風水害の財界への影響:各方面共格別のことなく唯問題は中小商工業者の救済▼【九月の事業課彙報】▼裁判所公告:【商業登記公告】▼日本の人口▼商工会議所の新設▼接客いろは教訓▼(表) 島内主要都市勞働賃金比較表/市内銀行營業概況/市内銀行爲替取扱高/市内郵便局扱高/樺太全島煙草消費高調表

通巻第27號 (1934.11.25) /全6頁

▼小賣商人は社會的自覺が必要:小林會頭▼第一回小賣業振興委員會:於東京商工会議所▼先進都市の會議所は社交機關:北海道視察の話▼樺太觀光協會懸賞募集ポスター:一等(夏)知取 杉本菊雄君 同(冬)豊原 大堀惠美子君▼ストック品即賣會上高一萬五千圓:昨年に比し五割高▼月刊寸評▼有力商店は加入せず 商業組合法の缺陷:強制加入に改正の必要 北海道を視察して▼先づ會議所を御利用下さい:特設調

査部▼會議所と商權擁護:北海道視察の話▼第四十四回本所役員會▼【十月の會議所:事業課彙報】▼【本所に於ける諸集會】▼【商取引紹介】▼【調査室便り】▼【圖書室便り】▼【商業登記公告】▼小賣商の振興策 日商の委員會:愈々研究細目決定▼【財界大勢】沈滞を迫る米國財界大勢:アメリカの平價再切下説國際經濟界を脅す▼『反産』運動陣營みだる:産業會議案に衝動▼貿易の不調に依る爲替市場の軟勢:今後の推移と財界への影響▼島産品陳列即賣會:使へ島産!! 殖せ島産!!▼樺太の海底電話十二月開通:東京・樺太通話料三圓七十五錢▼日商理事に木村博士就任▼樺太經濟界と株式(二)(近藤株式店嵯峨支店長の話)▼(表) 豊原町物資異動状況

通巻第28號 (1935.1.1) /全4+1頁

▼迎春の辭(小林豊商會頭)▼會議所機能發揮上賦課金徴収規則:全島會議所統一▼豊商役員會要綱▼【十一月中の會議所事業課彙報】▼月刊寸評▼樺太事情宣傳 十年度觀光協會事業:理事會會頭懇談會に於て正式決定▼小賣商を済度するには三拍子揃はせる▼生活權の確認 要望は全國的:小賣商の認許制これが合法的な救済策▼中小商工業者の更生に組合を作れ(藤森良佑)▼商品見本證明手数料 全島會議所統一:地區内商人二十錢地區外商人一圓▼【豊商に於ける諸集會】▼【商工各組合便り】豊原菓子商組合總會/豊原町廉賣連合會例會/豊原製材業組合臨時總會▼【豊原町日用品小賣物價】▼金融問題解決に努力する:十一月二十九日夜東京會館における日本商工会議所懇親會席上(商工大臣町田忠治氏演說要旨)▼十二月の國際問題▼【豊商調査室便り】▼【豊商取引紹介】▼【商工時報附録】豊原町日用品小賣物價調表/市内郵便局取扱高/市内銀行信用組合營業概況/爲替取扱高

通巻第29號 (1935.2.1) /全4+2頁

▼拓計第二春を迎へ協力商工豊原の建設に!:商業工業經濟交通各部會は協力せよ:初總會に於て(小林會頭挨拶)▼新春議員總會:一月九日午後一時豊商會議室に於て▼豊原商工会議所新築委員會:一月廿一日午後一時:於豊商會議室▼樺商連合會首脳部:豫算獲得に成功した今村長官を訪問挨拶を述べ▼豊原商工会議所事務局の日常事務御利用下さい▼米國商業會議所の防空計畫▼【十二月中の會議所事業課彙報】▼【豊商に於ける諸集會】▼【豊商取引紹介】▼回顧と

展望 財政インフレを基調に財界活況を呈す:経済諸指標向上を示せるも十年度は若干警戒を要せん▼中小商工業の更生に組合を作れ (藤森良佑) ▼【豊商調査室便り】▼月刊寸評▼【豊原日用品小賣物價】▼臨時利得税に就いて▼【商店講座】お客さんに接するには/顧客に対する興味について▼一九三五年“若干の重要問題”(日本商工會議所會頭 男爵 郷誠之助)

通巻第30號 (1935.2.28) /全4+2頁

▼理想的商店街 建設の急務▼新築借入金承認の臨時議員總會:滿場一致可決▼第一回ピート試作栽培管理品評會:二月十日午前十時於豊原町役場▼會議所賦課金の滞納者は選舉權がありません▼豊原商工會議所事務局の日常事務御利用下さい▼【一月中の會議所事業課業報】▼【豊商に於ける諸集會】▼【商業登記公告】▼豊原町に於ける一ヶ年のゴム製品移入見込高▼物價調査▼昭和十年度中小商工業者の全面的振興事業計畫:豊商事務局案▼質疑應答▼觀光宣傳ポスター圖案懸賞募集▼昭和拾年度産業合理化普及施設計畫要綱:日本商工會議所▼物價は騰貴:【豊原日用品小賣物價調】▼豊原金融情勢▼博覽會だより▼海外での最初の國產車登録:錫蘭島で凱歌揚る▼公告▼東京市の中小商工業:共同經營の助長策▼【商工時報附録】樺太町村別商工業者戸數人口調/市内郵便局扱高/市内銀行信用組合概況/爲替取扱高/金利/職業紹介概況/豊原驛發者主要貨物高/客車収入/貨車収入/小荷物収入

通巻第31號 (1935.3.26) /全4+2頁

▼今後の商店は率先して科学的經營に移れ (小林隆平) ▼鐵道線路横斷 地下道, 亦是架橋等の他適當なる施設要望▼【商組ニュース】町田商相積極的援助を言明▼絹織物の標識いよいよ本極まり:近く商工省令發布▼今後の生産過剰と貿易の不振▼【二月中の事業課業報】▼【調査室便り】▼日支好轉と奇怪なる列國 (一) ▼豊原商人を評する需要者の聲▼昭和九年産米實収高:五千八百八十萬石▼【豊原町小賣物價調】▼(表) 市内銀行信用組合概況/爲替取扱高/樺太全島煙草消費高調/市内郵便局扱高/職業紹介概況▼【商工時報附録】昭和十年度議員選舉權者名簿/小賣店自己診斷書/販賣戰術と實戰 (商工省販賣管理部 宇原義豊)

通巻第32號 (1935.4.27) /全4頁

▼選舉には人材を選びませう▼豊原商工會議所議員選舉に就て▼有權者各位:豊原商工會議所事務局▼投票に關する御注意▼賦課金滞納者は選舉權がありません▼【豊原町小賣物價】前年より六分の騰貴▼【昭和九年度中の事業課業報】▼豊原商工會議所議員立候補者心得▼選舉告示▼四季連續貳千圓懸賞寫真募集:躍進日本の發刺たる姿と古典日本の傳統的魅力を▼變わつた店員教育:教材に理髮と入浴▼(表) 豊原各驛主要貨物發著表/市内銀行信用組合概況/爲替取扱高/市内郵便局扱高/客車収入/貨車収入/小荷物収入

通巻第33號 (1935.5.31) /全4頁

▼會議所の機能發揮は其れを構成する議員の活動如何にある▼商工會議所の社會的地位と其の明朗性!!▼豊原商工會議所議員選舉:二級五月十五日一級五月十六日執行▼重要商工業組合代表推薦議員▼『樺太貿易』の躍進時代:出超四千萬圓▼稟告▼印紙税に就て▼【豊原町小賣物價】前月同日に比し六厘の下落 前年同期に比し三分九厘の騰貴▼第一回議員總會:會頭小林隆平氏 副會頭樺太印刷合資會社代表太田鎮雄氏 夫々滿場一致推薦▼豊原商工會議所役員名▼鐵面子▼地方長官招待會席上日本商工會議所郷會頭挨拶:中小商工業者の擁護を懇請▼【四月中の事業課業報】

通巻第34號 (1935.6.30) /全6頁

▼商工振興の根本問題▼明年度の豫算編成に際して非増税方針で進む:財界の好轉熱せず:大藏當局態度を闡明▼涼を趁う人々 今年の觀光トップ名古屋から大視察團:夏明朗人々を待つ本島の風物:主催・名鐵案内社▼【ニユース】商權擁護の挺身隊 商工青年連盟生まる産青連との對立激化▼我が財界の前途:低金利恃むに足らず▼經營上の相談は先づ商工相談所へ▼【六月一穀菽類高反映して小賣物價續騰】▼【時事解説】北樺太買収論とその資源▼商工相談所で商人学校を開設:大阪, 名古屋でも計畫▼ガソリン値上 自動車業者反對の勢氣:關係當局に陳情▼砂糖商の全國聯合いよいよ成立:十六日大阪で旗擧げ▼最近の本所各部會▼經濟用語▼遠藤顧問逝く:偉大なる足跡を遺して▼謹告▼救はれ難い中小商工業者の困難なる金融問題▼小賣商店自己診斷書 (第三十一號より續き) ▼(表) 市内銀行信用組合概況/爲替取扱高/市内郵便局扱高/職業紹介概況/豊原各驛主要貨物發著表/客車収入/貨車収入/小荷物収入

通巻第35號 (1935.7.30) /全4頁

▼政府當局の小賣業改善策▼樺太と内地の商取引座談會:栃木縣食料品市場幹部を招いて本所樓上で▼【七月の豊原小賣物價】前月同日より一厘騰貴 前年同期に比し四分九厘の騰貴▼商工相談所事業概況▼樺太に對する資金供給問題の研究 (上) (藤森良佑) ▼前半期國內産業概観▼經營上の相談は先づ商工相談所へ▼第十回飾窓裝飾競技會:自八月十九日至同廿五日開催▼(表) 市内銀行信用組合概況/爲替取扱高/市内郵便局扱高/豊原各驛發著主要貨物表/客車収入/貨車収入/小荷物収入

通巻第36號 (1935.9.2) /全6頁

▼【豊原小賣物價上半期の回顧】▼本所新舎の上棟式:八月十二日舉行▼【ニュース】事業組合としての商組法運用修正:本商の協議期待さる/商組法第九条愈々發動せん:慎重を極めた商工省今月中に通告▼昭和九年度經費収支決算の定期議員總會開催:定款一部改正▼本所主催第十回飾窓裝飾競技會:盛大を極め廿五日終了▼全國主要地方に工業指導所新設:工業の地方分散農村の工業化に乘出す商工省▼品性の向上 全國共通的二つの悩み:「時間勵行」と「組合費又は會費即納」に共同生活に意義あらしめよ▼全購連が雜貨配給石鹼藥品に主力を注ぐ▼小賣店を救ひませう:六大都市協議:實際案を練る▼協調:商店と産組の提携▼樺太に對する資金供給問題の研究 (下) (藤森良佑) ▼【時事解説】低金利の將來▼産業組合は將來行詰る 或るレベル以上發達せず:「産組研究の論戰傍聴記」▼(表) 豊原町日用品小賣物價/市内銀行信用組合概況/爲替取扱高/市内郵便局扱高/豊原各驛發著主要貨物表/旅客収入/貨車収入/手小荷物収入▼講演 産業組合の盲進は國を亡す:國民擧つて監視せよ

通巻第37號 (1935.10.2) /全6頁

▼商店法案について▼北大橋の架替:會議所より陳情す▼落合發午後九時列車を豊原まで延長▼本會議所賦課金納入について:此の際至急拂込まれたし▼商店員の福音:商店法愈々本議會に案上提されん▼營業収益税状況調査 課税は帳簿から:商工會議所乗出す▼運轉手試験免除 内地の優秀技術者に限る:小型自動車運轉にも特典を當局に陳情▼秋の商略 飾窓は呼ぶ▼商工相談所を御利用下さい:商工業に關する事柄は何んでも取扱ひます▼印紙税について▼徒弟保護に商店法を提案▼小賣店の夜間營業:内務省社會局の業態調査に

現はれた夜の店頭風景は何を語る▼數字が語る豊原の業態▼商工業は搾取機關でない:大衆の誤つた思想を打開せよ(木村博士演説内容)▼シヨウウインド最近の傾向:靜的裝置より動的裝置へ▼(表) 市内銀行, 信用組合概況/爲替取扱高/市内郵便局扱高/豊原各驛發著主要貨物表/客車収入/貨車収入/小荷物収入

通巻第38號 (1935.10.30) /全4頁

▼豊原商工会議所竣工:十二日落成式を舉行▼小林會頭の式辭▼工事經過報告 (太田副會頭) ▼祝辭▼祝電▼小賣商業の許可制:豊原商工会議所より答申▼商都豊原の秋を飾るストーブ展覽會:織物組合聯合會主催の第一回冬物新柄陳列會▼年に一度の素晴らしい催 第四回見切品協同即賣會:江戸ッ子呉服店跡にて▼謹告▼營業収益税査定 自然増収目當にて過重なる課税:大阪商議不當を指摘▼稟告▼商品見本は證明書不要▼豊原實業俱樂部生まる:理事長小林會頭 副理事長太田副會頭▼需要價格を改善し島民生活を安易に:住宅の不備も定着心を缺くと:櫻井次官の樺太觀▼鐵道運賃引下でいよいよ便利の『宅扱』:貨物運送規則改正

通巻第39號 (1935.11.30) /全6頁

▼業界への理解と商工豊原の建設に 豊原商工婦人會生る:新嘗祭の佳辰をトし創立總會を舉ぐ▼豊原商工婦人會々則▼新築當初の議員總會に於て:所舎使用規則制定▼經濟統計に調査員を囑託:商業部▼産組と商人經由の配給費を比較検討▼商工中金案の善處要望:全國市街地信組が▼商工省の中止要求を斷固一蹴し:「商工金庫」全國大會を開く▼中小商工業者對策:商工省の方針▼【時事解説】商工中央金庫の運命▼小賣業の改善對策:商工省小賣業改善調査委員會決議▼鐵道運賃の引下といよいよ便利の「宅扱」▼店員心得▼歳末は迫る! 開く前哨戰觀戰記:顧客名簿の準備工作! 秘策を練る各商店▼島產品愛用普及宣傳販賣會:十二月十四日より三日間江戸ッ子跡にて▼本會議所賦課金納入について▼時間を勵行ませう:實業俱樂部乗出す▼豊原商工会議所所舎使用規則:十二日議員總會に於て制定▼新刊紹介

通巻第40號 (1935.12.24) /全4頁

▼一舉兩得の火災相互共済組合:「全島的に組織されん」▼商工中金法案要綱成る:事務は當分興銀で行ふ▼貯銀の定期積立:中途解約に對する無利子制實現せん▼島產品愛用に就

て(本所小林會頭談)▼洋紙界の不人氣:原因は價格▼存亡の岐路に立つわれ等の商權を護れ:六日東京に擁護大會を開く▼【時事解説】支那の新通貨政策▼廣告の効果 卒直に店主の氣持を:某店主の話▼幸運は誰に? 歳末聯合賣出しの幕開く!!▼【ニュース】毛織物の尺不足に對し商工相談所より注意:東京織物問屋に對し▼島内産業の發達は島產品の愛用から:“島產品の愛用は先づ臺所から”▼年末の賣出と販賣者の心得:忙がし紛れの粗漏を注意し騒然たる中にも感謝の表示が必要▼聯合賣出し参加店各位へお願い▼(表)豊原日用品標準小賣物價表/市内銀行信用組合概況/爲替取扱高/市内郵便局扱高

通卷第41號(1936.1.1)/全8頁

▼財界好轉の第一步(會頭小林隆平)▼1936年の物價はどう動く? 景氣好轉の微:昭和十年の物價を回顧して▼最高記録の我人絹生産高:輸出は遂に世界一▼【時事解説】兵器貿易:軍縮會議を尻目に益々殷盛を極む▼商工業の中心地伸びゆく大豊原:市制施行を目睫に控へ!(豊原町長 高橋弥太郎氏談)▼小賣業のプロフ井ル▼涼味萬點 觀光樺太の將來性:療養地として發展? 先づ特異性を宣傳せよ(樺太廳鐵道 島田運輸係長談)▼各國觀光標語▼時代の波に打乗つて:豊原商工青年連盟:愈々新春を期して發會式▼商工界の改善と青年連盟の使命▼お正月のメモ▼【立志小説】錢屋五兵衛と元旦(宮地嘉六作)▼價格協定の必要性▼爐邊茶話 近頃の賣店は目覺めました!

通卷第42號(1936.2.23)/全4頁

▼小賣商の濫賣問題:業者慎重なる自制心涵養▼商工青年の盟ひ:理事長に山吹孝三君 副理事長に肥田康君▼豊原火共組合華々しく創立す:組合長に川西幸八氏就任▼産業組合に限界あり 萬能主義を排す:注目される千石氏の説▼各組合へのお願い▼土地貸與廣告▼【お知らせ!!】商店帳簿の附けた講習會▼米國向輸出罐詰:原産國名記載文句に新規定▼目標は新たに:經營は前年度の損益表を顧みて▼【時事解説】増税は必至の情勢 織物消費稅引上げか▼商權擁護連盟の農村工業對策▼【商店經營】商品お取換:如何なる場合でも應ずるといふ店主▼變わつた遣り方變わつた店:蓄音機を貸す店▼包装紙は贅澤に:ある店主の言▼考へたり 雨降り景色▼店員教育の具体案 命令一下忽ち動く店員を整備せよ:賣上増加の根本策▼輸出入額とも廿六億圓を突破:入超は僅

かに千四百餘萬圓▼【海外經濟事情】昭和十一年一月分:商工省貿易局通報

通卷第43號(1936.3.25)/全6頁

▼樺太拓殖共進會 豊原協賛會一設立と其の使命(豊商會頭 小林隆平)▼さくら咲くころ 裏日本一帯經濟視察:豊商議員一行十餘名 四月中旬に出發▼第一回商店帳簿講習會:受講者六十五名▼事業創始三十年 四十七億圓の振替貯金▼従業員表彰に付お知らせ▼小賣店經營と帳簿の整備:自店向きの形式に案出が必要▼商工業組合認可を地方長官に委ねよ:日商, 小賣振興を建議▼【三月の物價は高位】穀菽・蔬菜類の狂騰の餘波を受け▼市民の大脅威 燃料の飢饉:豊商對策協議▼中小工金融へ:三菱銀行が進出▼豊商が主催する商業美術展覽會:樺太觀光協會も郷土藝術展覽會を計畫▼現金取引を振翳し豊原商店連盟:四月上旬に結成▼井戸の蛙▼豊商役員會:三月十二日於會議所▼中部日本五十萬の小賣商が連盟結成▼土地登記標準價格査定參考表:十一年三月(豊原商工會議所)▼小賣商人の癌! 貸倒れを防げ:店員の監督は勿論のこと 顧客の調査を怠るな▼金利は安くなる 金持はどの方面へ投資すべきか:株式投資の研究▼過食に陥り易い店員の公休日:留意すべきは外食▼【經營】ものは用ひやう一つ上手な集金の秘訣/間違つた小切手が役立つた話/嘘の請求書/商戦は協力▼宣傳の裏と表:これは情ない前景氣/早くも殘品賣出し/請求はこの「コツ」で▼【海外經濟事情】昭和十一年二月分:商工省貿易局通報▼米國に於て近く賣出される新安全燐寸▼會議所を御利用下さい▼博覽會便り:昭和十一年中開催

通卷第44號(1936.4.27)/全4頁

▼商工會議所の機能を根本的に革新か:日商の經濟機關の一元案▼裏日本經濟視察團!! 出發▼新財政樹立に際し慎重なる態度を以て臨め(日本商工會議所理事 經濟學博士 木村増太郎)▼販賣政策を惡用する結髮所▼本所賦課金納入について▼近頃の傾向 本格的となつた店員の教育▼店員の募集は廣告に限る:某店主の經驗談▼押しの戰術▼カフェー新戰術(吉田眞里畫)▼【經營】接客の眞劍に高級品を上手に賣る事:店内隨一の販賣員の話/ウインドーの研究:店内誘導力の強い三點主義陳列法/買物額に依つて態度が變る誤つた應對ぶり/商店經營いろは標語▼豊商會議錄:四月十日於會議所

通巻第45號 (1936.6.27) /全4頁

▼商工業従業員表彰今秋九月を期して盛大に舉行:申込は七月二十日迄▼全國郷土玩具商業美術展覽會:八月十一日より廿五日迄▼デパートメント・ストア:最も新しい小賣組織に就て▼【本所録事】役員會▼商店街を統制する:同土討を禁じ更生を計る:乗出した大阪府▼政府米買受申込六十萬石突破:漸次本格化の形勢▼東告▼産業省設置を要望 商工團體蹶起せん(渡邊博士談)▼産組と工組が犬猿の間柄を精算:文字通り共存共榮で進む:福岡縣の明朗な話題▼木炭の截斷機械:一定の長さに簡単に切れる▼處務十則▼【經營】賣れない特價品:それは特價品としての魅力がないからです/不景氣話は嚴禁のこと/明日のウインドウはかうして飾られる:注意集中主義は既に過去のもの/御用聞きを忘れて金十銭届た話/目先を捨て此の信念で常得意も出来る/商店經營の秘訣/愉快な廣告文案▼【お知らせ!!】帳簿分譲▼店内陳列法に就て▼店頭接客法:態度

通巻第46號 (1936.7.31) /全6頁

▼商工祭:拓共の大舞臺に踊る廣告行列:前景氣愈よ沸騰▼行列参加を極力勧誘▼宣傳は今一步“涼味”を強調せよ(協賛會事務長 藤森氏談)▼豊都商工界の動勢を調査:業者各位の援助を望む▼商工中央金庫 十一月初開業▼正札を守られよ 怠れば自滅:共進會期中は特に注意を要す▼北方文化の現状を汎く内外に紹介:輪奐の美を極めた豊原共進會の豪華陣▼綜合的打合せ會:萬全を期す豊原協賛會▼拓共の街頭宣傳▼無言の販賣者:第十一回飾窓裝飾競技會 共進會々期中開催▼共進會會期迫る!:市民協力一致協賛會の組織▼協賛會:カメラで見た樺太 郷土グラフを作成▼全島自轉車選手權大會:於豊原公園運動場:商工青年連盟主催▼出場申込は八月五日迄▼島内外への宣傳は徹底!:協賛會のラストヘビー▼中小業者更生策 商工會法制定:來議會に提出されん▼華開く 絢爛たる演藝館:河合劇團を始め豊原藝妓の總出演:ローカル演藝が横溢!▼収容力三千五百人 宿舍の心配無用:豊原協賛會更に活動▼内地・北海道より團體申込殺到:觀光協會頗る緊張▼驛頭に接待所 觀光客の案内:協賛會の街頭進出▼協賛會設立と其の使命(豊原協賛會長 小林隆平)▼團體旅客の汽車賃割引の應鐵の方針決定▼業界繁榮祈願:商工祭執行に就て(豊商副會頭 太田雄雄氏談)▼豊原町金融及商況概況:昭和十一年上半期

通巻第47號 (1936.10.7) /全4頁

▼窮極打開の根本策 經濟調查委員會設置:樺商連總會で決議▼商工業者救済:樺太廳調査を進む▼同業組合強化:實連が實行運動▼資源開發の早速 拓殖會社を設立:官民協力に依る産業北進▼金融談義 小賣商人融資の真相:銀行と何故提携しないか!▼豊商顧問に井出支店長を第八回總會で推薦▼會議所經費徴収概況▼商業組合法施行は頗る理想的!!:經費負擔過重に難色がある(樺太廳上野地方課長談)▼疲弊せる小賣商を救ふ可き途は!小賣商店の乱立を防ぎ確固たる商權の獲得▼液体燃料割當區域に樺太を編入せよ:亞寒帶農業繁榮の一助に:豊商提案の理由(太田豊商副會頭)▼全島民待望の樺太放送局!!:豊商が音頭取で連合會から陳情▼表彰 勤績従業員二百五十餘名:豊原商工會議所管内▼ストーブ即賣會:消費經濟の合理化 火防衛生の宣傳▼時運の趨勢に鑑み努力の跡顯著:第十一回飾窓裝飾競技會/審査報告(審査委員長 上野武雄)/祝辭(豊原町長 高橋弥太郎)▼【議事録】第八回議員總會 去月十二日午後開催

通巻第48號 (1936.10.31) /全4頁

▼稚泊連絡 大泊出港時刻變更:樺商連合會動く:冬期稚内待合時間の短縮夏期昼間運航を實施せよ▼第三回商工従業員勤績表彰式々辭(豊原商工會議所會頭 小林隆平)▼榮譽を永遠に!(樺太廳內務部長祝辭)▼興業銀行の積極的態度▼産組の貸付利子引下げ:豊商から陳情す▼【新税制解説】賣上税とはどんなものか?▼商權擁護に邁進し業界の安定を期せ:商工戦線の勇士に残された使命(太田副會頭激勵の辭)▼賣上税 二重負擔の課税に飽く迄反對:中小商工業猛然立たん▼臺灣に商工會議所令 近く公布さる▼秋の呼物 見切品大廉賣會:豊都を彩る催し:江戸ツツ子呉服店跡を會場として十一月一日より三日間開く▼優秀なる参加店 三十餘店の多數▼盛況裡に終了 ストーブ實驗展:賣上實に二千五百圓▼日本觀光聯盟に樺太協會入會:オリムピックを控へて大宣傳▼【業界展望】貿易の惡化/肥料界/米穀界▼優良店員 永年の勞苦酬ひ榮譽を擔ふ人々:杉山和輔氏外二百四十二名

通巻第49號 (1936.12.10) /全4頁

▼利廻異變 税制改正が齎した貯金利率の不均衡:郵便貯金の利下げ斷行せば産組にも制限を加へる▼産組の貸付利子引下げ方要望:豊商より實業懇話會へ▼北海道産米取引懇談會:十二日豊商に於て▼日商の第九回定期總會:去る十七日

より三日間東京商工會議所に於て▼觀光施設改善『座談會』開催▼歳末聯合大賣出▼【經濟界展望】郵貯利下の問題▼迫る年末 三六年も最後のコースへ:平凡にならぬ様注意せよ! 歳末前哨戦展開▼豊原市制實施 明年七月一日と内定:九月早々初の市會選舉▼樺糖操業に際し官民協力を望む▼ガソリンの規格統一實施機運熟す:酒精混用に促されて▼商工省の工業組合指導方針:既設組合の内容擴充を圖る▼税制改定運動愈々實行せん:日商全國に命令▼經聯、税制案を討議▼精神修養に珠算講習會:盛會裡に終了す▼全産聯の討議慎重▼日商の運動方針税制問題其他 貫徹へ▼豊織商組合の紛糾圓滿解決▼【お知らせ!!】豊原商工案内分譲▼島産愛用 本島經濟界の向上は移入品の防遏に在る:日用品の移入が約二千萬圓 (豊商會頭 小林隆平氏談) ▼燕麥一割混食で自給自足完全:樺太廳農務課で現況調査▼島内商工業實情 明春早々調査に着手:調査區域は十一町二箇村とす▼自轉車の免税運動▼創始以來の記録 ストック品即賣會:總賣上高實に二萬六千圓▼間に合わせませう島産品!:愛用宣傳即賣會:來る十八日から三日間江戸ツ子呉服店跡で▼郵貯利下の利益金を社會事業費に▼商工事務研究會 豊商の提案事項▼樺太寫眞連盟設立:目下會員の募集中▼商工會議所の機能を積極化:内閣調査局で研究▼商組助成方針指導監督強化:商工省の政策轉換▼相談は! 商工相談所へ:常設豊原商工相談所

通卷第50號 (1937.1.1) /全12頁

▼年頭所感▼健康増進 待望の商店法案愈々議會に提出:從業員の待遇改善?▼營業時間の短縮 公休日の制定實施▼豫想高より實収は増加:豊作明朗譜▼帶短、樺長の職業紹介法!:樺太廳今更狼狽す▼中央金庫の手形交換▼匱大豫算のポイント 新規事業に注目!:樺太廳創始以來の巨費は島民の期待を裏切らぬ?▼新味を凝して大成功を収む:島産品愛用運動面目を施し終幕▼商工中央金庫貸出利率認可▼商工業の非常時 轉機を孕む財界:1937年を迎へて (會頭 小林隆平氏談) ▼拓計インフレ謳歌時代來る▼踏襲豫算 商工界を顧みぬ樺太廳の態度:新味更になき明年度豫算 今後の成行を重視!▼新春雜語 (豊原町助役 金子生) ▼日本觀光聯盟華々しく誕生▼【新年小説】軍需インフレ (畑喜代司/木原芳樹畫) ▼【經營】第一課:店主が第一線に 計畫より實行▼交通觀察 鐵道より觀たる樺太の將來 (樺太廳鐵道事務所長 大島忠康) ▼小賣業の窮狀數字的に解剖:愈々十二年度より着手▼金融會社と無盡會社 (豊原無盡株式會社々々長 駒村健三) ▼

【新年漫才】電力國營 (美吉家△夫/美吉家○子/井崎かすを畫) ▼商組中央會が課税反對の陳情:更生振興を阻害する▼株界大勢:二月及六・七月底の年末爆發戰?▼明朗譜 交通部の新設は拓計に拍車!!:樺鐵の運賃引下は別個にと (武藤内務部長語る) ▼先づ人を見よ! (北門銀行豊原支店長 小林圭一) ▼郵貯の増大顯著 銀行預金は鈍る▼【時事解説】樺太廳豫算 領有以來最初の拓殖インフレ來る▼我が世の春 丑年生れの議員さん:豊商には五人居る▼銀行保險にも課税 産組免税成らず:取引税法案要綱決る

通卷第51號 (1937.2.9) /全4頁

▼小賣業の“癌”發見!:商業實情調査:豊原町外十一町村に亘り樺太廳愈々本格的に着手▼豫備調査は本月中旬終了▼航空發達に愛國切手を▼豊商第九回總會:新年度豫算は一四、八四八圓也▼【お知らせ!!】會議室使用▼會議所新設▼【貸室概況】▼【經濟解説】賣上税はどう響く?▼商工豊原建設に邁進せん (議員總會に於ける小林會頭の挨拶) ▼物價騰貴餘波:官吏の減俸復活:政府は十三年度に實現?▼貿易實務講習會:東京市産業局で▼材木の相場▼蚯蚓の戲言▼同業組合の行事其他!▼年産額六十萬圓:酒精界に氣を吐く躍進の! 樺太製藥株式會社▼盛澤山な交通部事業▼島産家具類宣傳普及に工業部會乗出す▼同業組合の強化に力瘡:豊商經濟部會初部會で協議▼人口問題:食物と人口増加:出産死亡共に世界一 (醫學博士 宮島幹之助) ▼工業組合の發展概況 (S・Y生)

通卷第52號 (1937.3.18) /全6頁

▼業界刷新の基礎工作 同業組合の連絡強化:豊商組合長を招いて相互の意見を交換す:聯合會議▼小賣業統制組合法案:東商の振興策▼一人の遅刻萬人の迷惑 樺太時間排撃:實業俱樂部大綱を決定▼組合の動靜:三月初旬迄▼近き將來に實施せん商業學力檢定試験:小林會頭希望を披露:講習會終了式々場で▼商業實態調査最後のコースへ:其ノ二:本調査▼豊原陶磁器組合:目下設立準備中▼【貸室概況】二月底日迄▼文化施設を急ぐ商工都市豊原:豊商の陳情内容▼第二回珠算競技會:參加者四十六名:榮冠は一伊藤輝夫君▼小賣店經營調査を行ふ:東京商工形縣下で▼賣出し技術! 狙ひが大切心理を掴め:通學用品と新學期▼【經營】お客の差別は禁物! 僅の買物客こそ大切なお店の寶▼西一條繁華街に商店聯盟生る:街の繁榮増進に努む▼當業者を脅す自家製醬油:山形縣下で問

題化▼岐阜県でも實地講習▼【お知らせ!!】▼簿記と珠算講習會:好成绩を収む:受講延人員四百八十四名▼組合動靜▼【観光雑筆】(FO生)▼博覽會便り

通巻第53號 (1937.5.10) /全4頁

▼待望久し:文化の先驅たる放送局設置問題▼【市内小賣物價の推移は?】▼現代商人の岐路:大阪の商人東京の商人▼【論説】我が國商工会議所改革問題▼賦課金は▼中小業の金融に信保證協會設立:東京府の原案成る▼【観光ニュース】大阪の視察團近く來島する/トーカー映畫政治博で上映/日本觀光映畫海外で上映される/國際觀光局の海外宣傳計畫/福岡縣でも▼海外宣傳計畫▼【豊原商工会議所の貸室概況】三月中/四月中▼今月の漫語:物價は騰つたが購買力減退す▼水も洩らさぬ商聯賣出陣!北海道博招待オンパレード展開:鳴物入りの宣傳戦▼商工相談所の全國的連絡計畫▼生産力の躍進:全國工場調査▼全國の博覽會 商工省が統制:目下具体案考究中▼【組合だより】白米の重量制十月一日より實施:魁ける豊原組合/陶器商組合:組合長に生駒氏/例會を制定/店員の待遇改善斷行?▼商工組合の認可權 地方廳移譲の肝▼【観光漫談】▼【新刊紹介】

通巻第54號 (1937.6.10) /全4頁

▼祝市制施行 絢爛の美を誇る“廣告行列”舉行:豊商主催の商工祭:六月廿八日より決定す▼非大衆的な物價高▼勤續従業員等を表彰:豊原菓子商組合▼商業組合法改正:大商の答申意見決定▼大商が物價對策委員會▼豊商會計監査:去る廿七日に結了▼結束固し 陶器商組合▼【五月中貸室概況】豊原商工会議所發表▼商店法案に對し豊商の答申決定▼第一回商業實情調査:六月中旬全部終了▼舉町の催し店頭裝飾競技會:二十八日より八日間▼【豊原町の物價果たして高いか】全島的に觀て割安だ!!▼商業組合の改正意見:日本商工会議所▼【論壇】我が國商工会議所改革論の根據▼新味を盛つた十二年度事業:宣傳紹介に一段の飛躍▼初夏の使者!先乗り視察團:大阪より二等團體二百名別班は六月十六日來豊▼小賣商店は何處へ▼商工業振興施設擴充を要望:豊商・町當局へ陳情▼樺太特設館:道博會場に建設▼獸魂碑建設:豊原肉商組合で▼統計に依る見透し:世界經濟は中ダルミ▼親しき仲にも隔てあり:夫婦間でも云ふべき事云ふべからざる事(醫學博士 諸岡存)▼上戸の良人を扱ふ法:赤ん坊をあやす氣持で意見は機會を捕へて(醫學博士 諸岡存)

通巻第55號 (1937.7.10) /全4頁

▼奇想街頭に開く絢爛大絵巻!哄笑・爆笑の嵐起る:大成功を収めた廣告行列▼進歩の跡歴然:審査委員長の報告▼市制記念 店頭裝飾競技會:面目一新の感:一等に丸屋洋品店入賞▼豊原の商工祭盛典を極む:江戸ツ子呉服店跡で▼獻納品は全部福引で參拜者に▼愛せよ自然:觀光祭:美化せよ郷土▼今月の視察團メモ▼洋々たる前途を約束 都豊原“市”に昇格:四萬市民舉げて市制を謳歌▼祝市制 躍進豊原の慶事(小林豊商會頭談)▼商工都市豊原會議所の近況:業績に驚異的記録!▼梅澤源吉氏が豊商顧問受諾▼樺太の郵貯額前年より増加▼觀光事業の遂行に理解と支援を望む:觀光祭に當り(出口支部長談)▼觀光客の注文:主として旅館に就て(大阪視察團員)▼【論説】商,工業組合法施行の急務▼人物月旦▼物價情勢▼商工会議所と商工相談所(上):如何なるものか▼觀光“樺太”の建設へ:樺太觀光協會

通巻第56號 (1937.8.10) /全4頁

▼銃後の護徹底へ:應召軍人家族慰問:後顧の憂ひなからしめよと豊商第一線に乘出す▼今後の商業は手数料配給?▼【論説】我が國商工会議所改革問題▼北支事變と商品界!▼豊原市『商工人名録』 豊商目下準備中:發行は明年一月の豫定▼日本度量衡協會樺太支部創立:去る廿三日發會式舉行!▼舉國一致:財界結束し政府を支援▼小賣業者はどうなるか(一):配給組織の變遷と中小小業者問題(商學博士 井上貞藏述)▼活躍時代に入つた豊原商工青年聯盟:理事長の更迭を行つて▼質より量に轉換の商青聯:山吹氏を顧問に推す▼見切賣出しは絶對的必要である:秋の廉賣會に一段の努力▼豊商要路に打電:事變解決善處を懇願す▼廣告は店員次第:生きもし死にもする▼店頭裝飾競技會入賞褒賞授與式▼サービス訓▼道博參觀:招待團體出發▼北支の銃聲一發經濟界に響く:今後益々深刻化するや▼内部的缺陷排除に統制的組合法:東商の法案要綱▼【商工会議所貸質概況】六月中/七月中▼商品の撰擇は顧客本位に!

通巻第57號 (1937.9.10) /全4頁

▼消費者安心せよ 小賣物價は二回公表:同業者と緊密なる連絡の下に豊商の非常時對策成る▼呉服類一齋値下:豊原織商組合全島に魁▼應召職員の待遇:銃後の經營指導 遺憾なきを期せよ!▼戰爭と財界:支那事變はながびくか?▼時局に

鑑み暴利取締令▼省令改正に就て（村瀬商工次官談）▼時局重大の折柄 放送局設置は急務:豊商促進に大童となる▼小賣商の負債は一戸當り二千圓:調査當局悲鳴を擧ぐ▼支那事變と暹羅經濟界▼小賣業者はどうなるか（二）（商學博士 井上貞藏述）▼【事變異聞 暴利取締を尻目に物價は下落の一途】豊都小賣戰異狀なし▼全市一丸とする商店聯盟を結成:豊商商業部の音頭で▼觀光地に於ける案内人との連絡▼支那事變と財界:事變と持續性▼輸送は頗る圓滑 移入品滯貨なし:樺太廳萬全を期す▼經濟概觀▼時局對策確立へ全財界綜合統制の中樞機關設置要望:東商建議にトツプを切る▼日商も建議▼【會議所の貸室概況】八月中▼支那事變と馬來聯邦の經濟界▼會議所機構の改革案考究中▼今次事變に對する豊原商工會議所小賣商業經營相談所の施設▼商業銀行誘致:豊商積極的態度▼特別税:樺太廳豫算七萬四千圓

通卷第58號（1937.10.10）/全4頁

▼輝く文化の金字塔“豊原放送局”實現!:敷地も既に決定的となり生まれ出る大豊原の新名所▼放送所用地は約六千坪?:競馬場北側の市有地▼【穀類下落反映 日用品は漸落】先月より一分七厘安▼銃後の經營に必要なる援助!:市内商工團體の結束固し▼白米重量取引に就て（豊原米穀雜貨商組合長談）▼大工組合で緊急役員會▼豊商議員一行惠須取視察▼全島に魁けて重量制實行:豊原市に漲る明朗譜▼組合旗を新調:二日入魂式舉行▼島内各主要都市に商工相談所を設置し内部的經營上の缺陷を補正して斯道の啓發に任せよ▼商工課新設:當局に建議▼小賣業者はどうなるか（三）:中小商業者不振の根本原因（商學博士 井上貞藏述）▼本島取引の實情考慮:暴利取締懇談會:地方課主催豊商で開催▼商道の發達は之を阻害せず（白井地方課長談）▼時局を惡用せず商道を守れ:暴利取締懇談會盛況▼暴利取締に於ける大体標準▼燃料需要期に石炭一齊値上げ▼食肉異變 こんなに騰つた豚肉 牛肉は反對に値下:兩者の供給反比例が原因▼【會議所の貸室概況】九月▼經濟概觀▼稟告▼勞働力と物資生産力との關係

通卷第59號（1937.11.10）/全4頁

▼電話規制大改正で全面的料金値下げ:内樺相互の通話も明朗化:明年一月から實施さる▼重要問題を審議 對策委員會設置:非常時經濟統制に對應の建議案決定▼第三回時局對策

委員會報告▼名残りを止めストーブ展中止▼商業都會の決定事項!▼知つて置くべき數々:店員實務講習會:主催は豊原商工青年聯盟▼時局下の博覽會會期延期を聲明:新潟・仙臺が▼經濟概觀▼誤解を招く秤の狂ひ 發見次第修繕:度衡臨時檢查實行▼産米檢查實用標查委員會:小林・齋藤兩氏出席▼全般的税制整理取止めの方針:調査委員會で表明せん▼毛糸商組合總會役員改選▼本紙發行部數▼品質と重量の統制 豊商對策に乗出す:木炭業者の要望に應へ▼官營經濟時代到來の感あり▼冬ものへの前哨戰 街路完成祝賀賣出し:武装を整へた西一條街▼優良煙草小賣人表彰式を舉行▼客は常に正し:間違も是認せよ▼小賣業者はどうなるか（三）:業者不振の外部的原因（商學博士 井上貞藏述）▼急がるゝ冬仕度!:第六回即賣會は超満員:人氣はやはり被服類に:賣上高實に三萬圓▼記録的な賣上高▼歳末資金を中心に:豊原金融座談會:多大の効果を収む▼屠殺を制限し豚の増殖計畫:豊原興農會統制實施▼店は立派に頭は低く▼業界の刷新を期し全島商工事務研究會:重要事項三十餘件を協議▼島産加工品の需給關係調査:樺太廳本格的に乗出す▼【十月會議所の貸室概況】▼皇軍武運長久祈願:研究會員一同が

通卷第60號（1937.12.10）/全4頁

▼時局對策 誤れる消費節約をこの際は正せよ!:産業界の萎縮は國富を妨害▼經濟調査に暗影 頭痛鉢巻の當局:業者の理解要望さる▼定例部會:去る十八日豊商で:經濟部▼時局の影響を豊商調査に着手:本月中旬完了の見込▼財界大勢▼歳末事業決定の商業部定例部會▼十一月の物價騰貴は變体▼小資本の新抗開發は許可制とせよ:石炭統制に業者の意見▼歳末商戰を控へて大衆の購買力如何:衣服類の消費は激減した▼國民精神總動員産業週間を設定:十二月三日から九日まで▼小賣業者はどうなるか（五）:中小商業者不振の根本原因（二）（商學博士 井上貞藏述）▼神社通りで商交會結成:廿六日豊商で發會式▼結成記念福引大賣出し:景品總額八百圓▼趣旨の徹底を期し島産品愛用週間!:“島産料理週間”も設定:即賣會は十七日から▼銃後の護り完璧 戰線勇士慰問:郷土愛國寫眞を贈る▼代用品工業に助成金を交付▼景品總額四千圓:全市聯合大賣出し:来る二十一日より三十日迄▼初賣は明朗に縁起よく!戰捷氣分も織込め▼經濟概觀▼石炭の一貫統制:當局具體案作成を急ぐ▼商業調査雜感（T・K生）▼【十一月・豊商の貸室概況】

通巻第61號 (1938.1.1) /全12頁

▼年頭所感 (商工大臣 吉野信次) ▼中小業者と産組の根本的摩擦緩和へ:配給調整機關を提唱!▼お菓子やさんの富山式販賣法:試みとしては面白い▼ロータリー俱樂部設立に就て (北門銀行豊原支店長 小林圭) ▼聖戦の意義を思ひ皇軍に感謝す (樺太廳長官 今村武志) ▼電話規則改正で拓けた通話路▼藤森豊商理事の退任を惜みて▼金は民衆の手に 農村景氣も上々:この暮の購買力は從來と違つた形勢▼庶民金庫設立:日商近く政府に建議▼【小賣物價續騰】前月より一分高▼時局下の島産愛用運動:理解一段と騰まる:島産料理の好評多大▼樺太最初の無煙炭:愈々本格的開發:諸津炭業會社の手で▼年頭所感 (豊原市長 高橋弥太郎) ▼豊商役員會▼小賣業者はどうなるか (六) :小賣業更生は自治的更生が根本 (商學博士 井上貞藏述) ▼豊原歳末の肉類十七種餘に達す▼【經營】下手な数字的經營:賣つて出たけど經費が掛りすぎ努力も臺なし/商賣氣抜きチラシ配布却て人氣を呼ぶ/成功話二題:名刺を配り置き御用聞きは後から:チラシ撤く時間は非これだけは注意すべきなり▼島産加工品展覽會會場を豊原に:樺太廳は大氣乗?▼豊商經濟部會:石炭不足對策と紙類節約を攻究▼小賣店の魅力:洋服は昔今は要服:某洋服店のモットー▼六河江炭鉱は近く採掘開始▼産業組合法と樺太廳の態度▼消費節約の目標は國際収支の均衡確保:生活程度向上擴大を期せ▼揮發油節約標語:一等は大阪の人▼戦時体制下の新年を迎へて (豊商會頭 小林隆平) ▼豊原市發展と營業無盡 (豊原無盡株式會社々々 駒村健三) ▼罐詰消費に觀る興味ある傾向:割高と肉崩れが家庭の不滿▼島産青豌豆の不評:小樽商人の奸策:北海道廳も陳情一蹴▼樺太農檢の設置豫算通過に努む:農務課の方針決定▼皇軍慰問煙草:去る廿八日續完了

通巻第62號 (1938.2.10) /全4頁

▼石炭飢饉:燃料問題解決の鍵 官廳納炭期繰上げ:豊商交通部會重要協議▼事變應召者の經費賦課金減免:豊商議員總會で決議▼簡保限度引上で中小生保會社の整理合同必至か▼豊商後任理事内山氏と決定:十二日着豊の豫定▼増税内容▼甜菜栽培助成完璧を期せよ:豊商經濟部會が協議▼【物價は續騰】前年よりも約一割高▼有價證券業に免許制施行:今議會に法案提出▼待望の商店法案今議會提出と決定:厚生省各局連絡會議で▼商業組合法改正:商品券發行を認む:商工省今議會に提案▼混用規則改正實施延期:近く毛工聯で陳情▼小

賣營業の改善:初部會で攻究:去る二十四日・商業部會▼小賣業者はどうなるか (七) :中小商業者更生の具体策 (商學博士 井上貞藏述) ▼開店時間の統一! 冬季は午後九時迄:全島に魁けて豊都商工界近く全面的連絡會議開催▼中小商業救済に産業方面委員制度:三百萬圓追加豫算に計上▼普通銀行無益會社に代理業務を擴大▼事務局代表協議會:十八日豊商で▼雜貨商組合で定休日を設定▼店員求人難打開座談會:店員希望者の少い理由は! (一) :主催 豊原商工青年聯盟▼經濟秘話 量が少くて! 火力を強くする:家庭科學研究所調べ▼各部の提案審議:豊商役員會:正副部長聯合部會を申し合す▼増税すでに覺悟:財界極めて冷静▼洋室に調和する花の飾り方▼お願い

通巻第63號 (1938.3.10) /全4頁

▼國民精神總動員と商業報國週間:各部會に於て協議を行ひ豊商具体案を練る▼勢力爭奪防止は業者の自省に在り (樺太廳保安課長 阿部宗一氏談) ▼【豊原市内物價漸騰の傾向】▼時局に對應し製材單價値上:豊原製材組合で決定▼躍進途上に在る商工青年聯盟:會員を各部門に分屬▼地區繁榮の積極策 各商店聯盟の結成:會議所當局統制せん:聯合會組織▼大通商店聯盟役員の顔ぶれ▼實態調査に現れた商業不振の原因:業者數の夥多 營業經費の高率 金融の不團滑 仕入販賣不合理 (白井地方課長語る) ▼ス・フの混用は保健上害なし:日本ス・フ協會聲明▼物價抑制の徹底化:各地に委員會設置:商工當局目下立案中▼業界不振の原因は金融機關の不備! 商店夥多も大なるもの:組合法施行が急務▼活躍時代に這入つた商工事務研究會:本年度より會報發行:商工視察員をも派遣▼店員求人難打開座談會:店員希望者の少い理由は! (二) :主催 豊原商工青年聯盟▼物品稅修正:實聯意見提出書▼滿洲パルプ五月ニ操業▼商婦の座談會▼小賣業者はどうなるか (八) :中小商業者更生の具体策 (商學博士 井上貞藏述) ▼商店従業員實務講習會

通巻第64號 (1938.4.10) /全4頁

▼貯蓄獎勵運動に伴ひ消費節約の徹底か:一般的に節約の色彩濃厚:大藏當局の計畫案▼有價證券業取締に地方專任官設置:商相委員會で方針を明示▼中小商工業資金緩和策要望さる:損失保證制度の不便▼店員の保護が主眼 商店法案通過:間接的に營業上に好結果▼常議員會で確定 臨時増税案に對する意見:日本商工會議所▼時局下の物價騰勢と其の對策展

望（豊原商工會議所理事 内山四男也）▼道路取締緩和を要望:會議所より當局に折衝開始▼さあ研究しませう 事變特別税への認識:豊商が音頭取で座談會開催▼求人申込は殺到 深刻な世相反映:勞働者我世の春謳歌▼疎にサービス▼樺太製藥兩宮新支配人▼商工報國の大旗幟し全市舉げて強調週間:四月二十九日より五月五日迄:會議所・市役所共催▼商店員にまた喜び 健康保險の實現へ:厚生省來議會に提出▼豊原にもスフ時代▼商工相談所を御利用下さい▼物價への刺戟抑へ取引改善に乘出す:織物商組合で現金取引聲明▼小賣業者はどうなるか:商業者の更生具体策に就て（商學博士 伊上貞藏述）▼新有權者各位へ

通卷第65號（1938.5.10）/全4頁

▼【商工時論】商工業報國に邁進せよ▼物價昂騰抑制に公定價格制度の適用擴大:商相各局部に準備下命▼商工婦人會主催:見切品即賣會▼電氣週間:樺電のサービス▼商工業報國週間:近く實施成績懇談會開催▼全般的の需要に原産地の供給伴はず:北洋材當分強保合▼石油の切符制度:消費規正は何故必要か:燃料局▼シベリア經由の郵便物の制限▼鈴蘭燈▼理事會で協議▼統制限月四ヶ月を更に二ヶ月間延長:差當り價格は綿業委員會で決定▼連絡統制強化に聯合會を結成す:九日會議所で創立總會▼支那事變特別税:物品税の注意事項▼ガソリン節約實施 樺太は七月から:節約量は内地の半分以下▼全島理事會▼【天井知らずの小賣物價】前月よりも二分五厘高▼惠須取商工會議所認可▼御用聞き制度（高良富子）▼戦時体制下に於る豊都の商業戦線:羊毛輸入制限に伴ひ毛糸統制は益々強化:豊組樺太廳に善處要望か:全島業者も起たん▼増税に伴ふ暴利行爲の取締▼御注意下さい 銅使用制限:樺太にも十一日から施行▼談話室▼【經營研究】菓子業者の社會的地位（鈴木莊治氏談）▼商工相談所を御利用下さい

通卷第66號（1938.6.10）/全4頁

▼【商工時論】戦争經濟に備へよ▼物價抑制の萬全策 商工省が三段構へ:物價委員會、取締令、監視網を強化▼銃後体位の向上 例會對策協議:商青聯の活動日覺し▼店員の早起奨勵:七時半まで自由の時間 閉店後の外出を禁止▼各種組合連繫の輸出入リンク案:日商の貿易振興策▼鈴蘭燈▼國策の酒精製造に甘諸消費千萬圓:ガソリン節約約月七千石▼生保證券引受に商工債券發行か:商工中金の飛躍的發展▼店

員實務講習會:六月より明春三月迄:商工青年聯盟主催で▼軍需第一主義の餘波 鋼材供給不圓滑を憂慮:金物商組合の態度慎重▼【依然昂騰續ける日用品小賣物價】前月より更に一分五厘高▼中小消費者の鐵鋼切符制:七月一日より實施▼建値と市中相場 値開きは正:商工省具体策攻究▼落合商工會:正副會頭決る▼商店員に福音 公休日閉店時刻統一:休養と修養を眼目に▼店員手帖を交付:第二回講習會開講:講習人員百二十名に達す▼樺太酒造組合▼滿場一致で荒谷氏當選:豊商常議員補缺選舉▼鋼材の販賣にプール計算制採用:組合結成と同時に▼簡易小兒保險滿一歳から適用:厚生省保險院の英斷!▼小店員飢饉の原因:待遇と勤務時間の冗長:父兄の態度が最大原因▼時難克服貯金報國月掛貯金の取扱開始:國は我等の一錢に富む▼店員五則:東京履物研究會▼有限會社と株式會社の將來（豊商理事 内山四男也）

通卷第67號（1938.7.10）/全4頁

▼【商工時論】經濟戦はこれから:吾等の覺悟が肝要▼最高標準價格を指定 小賣物價抑制策決定:地方物價委員會の發動を促す▼地方事情に即應せよ▼商人の思惑熱を冷却:専門商店には相當打撃▼中小工業へ助成:本月より交付開始▼經濟警察制の機能發揮を期す▼無軌道的暴騰抑制 石炭飢饉稍々緩和へ:炭價も自然に安定せん▼綿布・綿莫大小販賣制限の限界:製品化したものは除外▼無駄を尋ねて商店經營講習會:八月・清水正巳氏來島▼パルプ廢液濃縮裝置:日本生産が完成▼事變下に目覺めて經濟警察の制度確立:全警察官に物價手帳を▼豊商議員一同内幌を視察▼小林會頭天津へ▼活かせよ廢品▼機能發揮の積極策 相談所陣容を整ふ:六月一日より獨立經營▼全市を六區に分け商工相談委員囑託:廿八日・初の打合會を開催▼戦時下物價對策樹立 物價委員會設置:商店方面からも歡迎▼綿製品の非常管理▼豊原市商店見學▼松浦氏來豊▼【お報らせ!!】▼物價對策に就て:商工省

通卷第68號（1938.8.10）/全6頁

▼【商工時論】戦争經濟と統制團體の動向▼代用品工業の確立 商工省本腰:科學審議會とも連絡▼綿製品の配給機關に中小商業者も加入:商工省目下具体案研究中▼ゴムの民需抑制:九日省令公布・施行▼廢品回収運動愈々實際化す▼商工相談所改組 國策犠牲者を救ふ:中央に失業對策機關設置:喘ぐ中小業者對策に萬全▼郵貯限度引上に地方銀行團陳情▼皆様の商工相談所を御利用下さい!▼北支、滿洲進出に本

島物産の前途有望:天津見本市出席の小林會頭の歸來談▼海産物は好評:積極的取引には出荷組合が是非必要▼清水氏の臨店診断▼需給取締規則を徹底:物資調整講話會:業者の理解と協力を求む▼島民の不安解消 ゴム靴は從來通りに:樺太廳中央に割當要求▼代用品時代と心構へ▼物品販賣價格取締規則と業者の注意:規則違反の絶滅を期せ▼物品販賣價格取締規則の制定:暴利取締令の改正に就て(内務部地方課長談)▼纖維, 皮革製品の標準價格を決定:本月六日廳令公布▼協定小賣價格:豊原市▼酒造統制の必要(小林英佐武)▼長期戦と銃後陣:自治的統制全し配給は販賣組合から:絶讃・板金加工業者の襟度▼業者の分布をたづね商業實態調査:商業補習生徒の手で▼皮革の民需制限:十九日樺太廳令公布▼【經濟メモ】輸出入リンク案とは?▼是非活用下さい商工相談所を:相談委員の顔ぶれ▼お買ひものには風呂敷を!!▼改正暴利取締令の解説

通巻第69號 (1938.10.10) /全4頁

▼商工都市豊原の誇 豊商生れて十五年:歴史的記念式典を舉行▼設立十五周年を迎へて(豊原商工会議所會頭 小林隆平)▼棟居長官の祝辭▼功勞議員表彰:八年以上勤續者十三名▼惠商の陣容整備:會頭に杉村氏:廿九日初の議員總會▼防犯に積極策:取締座談會▼轉業対策・方針決し各府縣に依命通牒:中央, 地方に機關特設▼第十五回樺商聯合總會:長官の諮問事項に答申:戦時下重要議案を決定▼未曾有の厯大:商工省の明年度豫算▼物動法の影響 業者善處方要望:アンモナイト商の悩み▼經濟警察の諮問機關! 急速設置を建議▼法令の徹底希望:各地の經濟警察座談會▼皇軍に感謝電報:樺商聯合會から打電▼戦時經濟体制強化:商工事務研究會:二日間に亘り豊商で開かる▼當業者共同責任の自治監視制度設置:暴利取締に新対策▼銃後商工業者營業援護事業:商業奉仕員制度の運用▼矛盾を排除し適正價格設定▼本島商店の實情と商店法の影響:新法令解説▼組合長に仙崎氏:製材業組合臨時總會▼臨時議員總會:聯合會提出議案審議▼銃後強調週間

通巻第70號 (1938.11.10) /全4頁

▼地元商人生死の岐路:在京長官に電請:小林會頭も出陣して猛運動▼廳購買組合設置に業者反對の烽火:時局柄成行注目さる▼對滿支販路開拓に助成奨勵の徹底:樺商聯合會の答申▼長官告辭:商聯合會總會に於て▼會議所機構改革實現の機運濃厚:本春全國理事會議でも論議▼集團の轉業へ:商工省方

針を明示▼島外移出許可:皮板の箱材▼聯合會總會に於ける小林會頭の挨拶▼ゴム靴配給の圓滑を期し全島聯合會を組織:代表者を派遣し取引方法折衝▼街路の御化粧▼買上綿製品の購入方法を協議:全島の割當七十七萬圓▼樺太廳全面的援助を約束す:製材代表參廳▼豊商の關係應召者遺家族慰問▼講演速記 改正商法に就て:於豊原商工会議所(樺太地方裁判所長 柳澤雅休氏)

通巻第71號 (1939.1.1) /全8頁

▼年頭所感(豊原商工会議所會頭 小林隆平)▼年頭の辭(樺太廳長官 棟居俊一)▼第三次増税:臨時利得が中心▼皮革の自給自足 國策會社設立:新春早々誕生の運び▼經濟警察の恒久化:懇談會設置▼全國民に慇懃:國家は切に國民の固き決意と撓まぬ努力と麗しき協力とを要望す(内閣總理大臣 近衛文麿)▼長期建設と商工業者の使命(樺太廳地方課長 北村得三)▼歳末點描▼中小商工業者の難局切抜策:地味に確實に効果的に(森住克堂)▼商業組合の進出:商業權確保に關ふ:改正以來記録的躍進▼木材工藝に就て(豊原市役所産業課 中島増太郎)

通巻第72號 (1939.2.10) /全4頁

▼會議所の機構を整備 經濟統制に參與せん:東商伍堂會頭所信を披瀝:政府當局者招待宴席上▼物資, 物價につき座談會を開催▼當業者の國策協力心▼本島のゴム靴:五萬足配給▼統制強化に即應し商工会の機能發揮:日商政府要路に建議決定▼全島商工相談所連絡協議會:十三日豊原で開催▼代用品の飛躍:補助金の増額▼業界に現はれたる歩引廢止の傾向:物價國策の影響注目さる▼木炭の配給機構:販賣組合設立▼店員實務講習會▼樺太の生産:一億二千萬圓▼家内工業に黎明:豊原木工研究所設立準備全く成る(土肥所長談)▼【時局解説】物價政策は何處まで進む?(上)▼珠算競技會:榮冠は酒造組合に:個人一等は角谷君▼興業債券發行:三千萬圓▼不正行爲の摘發急!▼相談所の機能擴充:擔當者内地視察:事務研究會と連繫▼塔路商工会:正副會頭近く決定▼木炭の自給自足:五割増産の奨勵▼相談案内▼物品販賣價格取締規則解説:樺太廳▼豊原市豫算 四十三萬五千圓▼興業の轉業貸付金利の引下

通巻第73號 (1939.3.15) /全4頁

▼戦時經濟:今後の事態に對應 處置の萬全を期せ:商工相談

所連絡協議會▼使命達成に努力されよ（地方課長挨拶要旨）▼尺貫法併用期間更に二十年延長▼販賣價格取締更に四品目追加▼商工會議所法改正案に就て（豊商理事 内山四男也）▼商業者の轉業に小委員會を設置:商工省積極的に活動▼物品税に品目追加:現行免税點引下げ:主税局の具体案成る▼【時局解説】物價政策は何處まで進む?（下）:所謂商賣のうまみを排し非常時國家に奉公▼戦時下機能發揮に全國相談所連絡協議會:廿三・四日の兩日東京で開催▼物品移出禁止に關する規則制定に就て▼増税案の内容▼物價裁定に新局面:商工省當局意向表明▼【取引紹介】▼物價再検討:對策を攻究▼物品販賣價格取締規則解説:樺太廳▼【商工關係法令】

通卷第74號（1939.4.25）/全4頁

▼税制整理の中心は所得税臨時利得税:監督局長會議で協議▼商業組合を結成:産組・商人とを分野確立▼適正價格形式へ:目標は事變前物價水準へ:生,配,消費も統制▼商組制度審議委員會▼生産力擴充へ 本年度物動計畫:年度目標達成に邁進▼物品税と遊興税:豊商で座談會開催▼印紙税の改正▼物價は保合▼遊興飲食税二萬圓突破か▼商工會議所議員選舉取締規則▼告示▼生産力擴充に拍車“物産協會”設立:總裁には長官を推戴▼國策線に登場 皮革會社誕生:七月頃に操業開始▼産組との摩擦排除が先決問題▼島産品を紹介:博物館内に陳列所▼經濟惡質犯増加 嚴重に處斷:起訴人員三千百五十名:續々摘發さる▼ゴム靴製造許可:四十五萬足▼本年度の有權者:總体的に四十八名増▼相談案内▼臨時租稅措置法:施行規則中改正命令（全文）

通卷第75號（1939.5.29）/全4頁

▼賃金統制と同時に勞務配給を圓滑化:委員會初總會で強調▼商工業轉業融資に損失補償料を免除▼公定價格表:會議所で配布▼物價統制業務日商で一部代行▼公定價格に親心:各地方の特殊事情を考慮し第一條但書を適用▼商品の更生用途を考究▼商工機構の改革:物價調整完遂に邁進▼經濟講演會:去る二十二日樺劇で▼樺太島歌を少年層に普及▼銃後商店員の向上へ:店員道場の開設と實業運動會を開催▼勤續従業員表彰:豊原菓子商組合で▼青森物産見本市を開催▼皮革配給統制規則:樺太廳▼印紙税の改正▼產業界再編成:政府愈よ本腰:中小産業調査會設置▼會議所議員選舉:無競争裡に終了:堂々たる陣容を整備▼議員初總會:来る二十七日午前十

一時▼自肅協力せよ:物價調整委員會に要堅▼臨時國勢調査:市の準備進む:調査員八,九十名任命▼【取引紹介】▼【解説】物の國勢調査

通卷第76號（1939.7.10）/全4頁

▼物價政策實施に對し日商の協力方針決定▼斯界の權威聘し經營指導員講習會開催▼商工所在地に相談所を設置▼無駄排除へ前進 消費は正に本腰:物資使用も合理的に▼内地への速達便:航空路の開始と實現▼八月全國一齋に物の國勢調査▼商業組合法を中心に論議の火花散らす:全島相談所連絡協議會▼商業組合法明年度施行か▼道場終了者に依り店員互助制度確立▼價格の公定は物價統制の根幹▼木炭の公定價格超過販賣許可さる▼職業能力申告:七月末日限り▼皆様の商工相談所を御利用下さい!!▼店員道場とは:心身鍛練を主眼に慰安娛樂など指導（豊商理事 内山四男也）▼豊原道場規則▼“金”回収に協力:全島時計商に呼かへ▼混砂米移入禁止▼香薰原料に“野ばら”一躍國策線に登場▼小賣業免許制▼【解説】物の國勢調査

通卷第77號 欠

通卷第78號（1939.9.10）/全4頁

▼物價の戰時統制:取締る,取締られる問題でない（理事 内山四男也）▼新興物資を紹介:代用品展覽會盛況:九日・十日會議所で▼【日用品物價安定】前月より五厘騰貴▼物動計畫の再編成:商工省歐洲對策協議▼石炭ストーブを委託販賣:廳當局交渉中▼歐洲大戰の勃發は我國に頗る好影響:財界の觀測▼小賣業許可制度:法律案來議會提出案▼通報（其の一）カーバイド配給統制要綱/（其の二）機・器の發注取扱▼スフ織物規格:十月頃より検査開始▼道場終了者中心に店員互助會を設置:獨立した研究機關に▼店頭飾窓裝飾競技會:二日・褒賞授與式▼國策包装! 現金商ひ! 經費切下! 非常時商店經營▼物・販・取締規則の再吟味を希望す:商工相談所▼石炭對策▼【八月申貸室概況】▼時局と賃金統制:厚生省

通卷第79號（1939.10.20）/全4頁

▼商工會議所改組問題の吟味（豊商理事 内山四男也）▼【小賣物價】事變來・初の下落▼商工報國に邁進!! 重要案件を可決:樺商聯合會定期總會▼物資・物價の統制上現行法改正を要望:東京府商業組合大會▼九月十八日・物價引上禁

止:停止價格は正も考慮:五日・内務部長より通牒▼織物商組合推薦第二號議員決定:山中金治氏を正式届出▼物資共同購入:廿三日・會議再開▼酒類醬油品評會:盛況裡に終る▼製綿原料確保に全島組合を結成:業者代表樺太廳と懇談▼地下足袋不足時代に自給的配給方法考慮▼亞鉛鐵板:全般的節約▼島産食料品愛用:企畫課研究に着手▼臨時議員總會:常議員に仙崎氏▼澤常議員逝去▼告示▼島産振興加工品展示會:去る七日より五日間▼應召商工業者の問題:商工省振興部

通卷第80號 (1939.11.20) /全4頁

▼價格統制令の解説:九一八價格とは何か

通卷第81號 (1940.1.20) /全4頁

▼經濟團體の再編成(理事 内山四男也)▼生産食料品も近く最高標準價格制へ▼商工行政を刷新:物資統制は益々強化▼商工業改善發達へ:皇紀二千六百年に力強き宣言:頼もしき店員互助會▼第四校職業部實際教育:頗る好成绩▼綿帶・脱脂綿獲得に業者代表が上京▼昭和十五年度豊原商工会議所經費収支豫算:收入總額三萬三千四百四十七圓 支出總額三萬三千四百四十七圓▼聯合會の機構擴充 必需品獲得に邁進:豊原組合長會議▼屑紙も配給統制:十一月廿四日施行さる▼釘付價格の超過:一定の手續が必要▼經費豫算議定の議員總會:前年度より六千圓増額▼新たに商業小組合制度:時局産業への轉換促進▼釘, 針金切符に有効期間制を實施▼申告なき商品の九・一八價格▼暴利取締の強化:暴利行為取締規則の解説

通卷第82號 (1940.1.28) /全4頁

▼【解説】改正商法に就て▼【資料】物資配給統制機構に關する意見:日本商工会議所▼沖豊原商工会議所主事:二十一日ついに逝去▼中小商工業用資材の圓滑な配給を希望!國民生活確保に「重點主義」の弊害警戒▼清酒販賣價格決定:二月十一日認可實施▼改正暴利取締規則:二月十五日公布即日施行▼岡山市の全繁華街 共同炊事も實施:食事配給組合組織▼木炭増産協議會▼“酒不足”緩和の大評定:全島酒造業者大會:各方面より多大の期待拂はる▼時の話題:小賣業許可制問答▼第二回珠算競技大會:息づまる緊張裡に終了▼祝勝會を廢し:金物店員同志會の美學▼精動久々運動開始 國策節米政策強行:先づ花柳界の銚子制限▼軍需用材:農林省幹旋▼製材の公定價格 樺太廳中央に折渉:農水産物と同様設定か▼質疑▼沖主事の葬儀:盛大に執行

通卷第83號 (1940.3.20) /全4頁

▼經濟警察運用の適正圓滑を圖る:經濟警察協議會誕生▼本島の移入物資中島内生産可能調査:豊商工業部で研究▼工業部會▼軍手價格決定▼議員動勢▼石炭・電力・物資の建議案を可決:日商・臨時總會開催▼【解説】經濟警察協議會と物價調整協力委員會:豊原商工相談所▼火災保險料引下げ:樺太廳・關係會社に折衝▼【所含利用状況】二月/三月▼自主的統制へ前進:全島業者が大同團結:酒造組合聯合會誕生▼監督取締強化と小組合制の役割:商業組合法改正案提出▼【組合ニュース】定期總會開催:踏鐵工組合聯合會/地下足袋・運動靴配給組合創立/組合別割當數量決定:自動車聯合會▼ス・フ品質向上▼商業組合の話(理事 内山四男也)

通卷第84號 (1940.4.25) /全4頁

▼【時言】九・一八停止價格の適正化▼商工相談所の全國事務協議會:去る廿八・九兩日東商で▼精動と商業者(村田昇司)▼酒類販賣免許制:申告・申請は四月末日迄▼毛織物の統制:樺太は獨自の方針で▼經營指導に言及(松井理事挨拶要旨)▼島産の酒値上げ:樺太酒造聯合會決定▼物資配給會社案 實現遂に見合せ▼【資料】戰時適正價格に關する各方面の意見▼議員動靜▼生擴の再検討と必需品供給確保:日商から當局へ建議▼營業收益稅廢止:營業稅法新に制定▼本島貿易額:飛躍的進展▼公定價格を可決:一氣呵成に七千品目▼第二回は五萬足 地下足袋近く入荷:運動靴も大量入荷▼特別法人稅創設▼【組合ニュース】配給確保を目指して燐寸組合聯合會設立/製材業組合役員改選/理髮業組合休日變更/菓子卸商組合設立/同業組合數一〇〇を突破▼【所含使用状況】三月/四月▼青少年の雇入制限:青少年雇入制限令の解説▼島産, 移入砂糖の配給統制方法決る:全島業者豊商で協議▼經濟記者クラブ室

通卷第85號 (1940.5.25) /全4頁

▼【時言】生活必需品切符制の意義▼生活必需品の切符制問題:六大都市の局部的實施は地方への惡影響多し:中央物價統制會議強調▼驛構内の物産陳列臺 改築で姿を消す:新意匠を凝らして近く再び御目見得▼本所議員總會と役員會▼(写真) 豊商宣傳ビラ▼移入組合聯合會專務理事を更迭▼物資の配給 商組を利用せよ:第八回商組大會▼小河新長官着任▼商議選舉權と經費賦課改正▼本所會計決算▼生活必需

品の切符制:如何に實施されるか:本所内山理事と一問一答▼
一般消費用綿製品配給統制要綱▼貿易振興論文 横商が懸賞
募集▼屑鉄鐵の入手難に鑄造業者・苦惱深刻:樺太屑鐵統制
會社に善處方を懇請▼セメント (洋灰) 配給統制要綱▼小
麥粉使用の業者に御願ひ▼木炭配給に切符制:來月初旬から
實施意嚮:一戸・一ヶ月二俵以内▼【組合ニュース】雜貨商
組合砂糖配給方法決定/運動具商聯合會/装蹄士會創立/半田
錫聯合會:廿八日創立總會/豊原板金加工業組合正副組合長更
迭▼【所舍使用状況】四月/五月▼代用品共同型錄本所に備
付け▼“商業小組合”制度:商業組合法中改正内容 (商工振
興部商業組合課長 安田元七)

通巻第86號 (1940.6.25) /全4頁

▼【時言】商業人の心構へ▼切符制實施に先立ち全島の在
米高を調査:廳, 節米政策に萬全期す▼薬工品配給統制に新
會社設立:資本金三百萬圓 (製氷を主眼に) ▼全國製粉協會:
十五會社で近く結成▼紀伊主事着任▼局方脱脂綿の本島配
給要綱▼商組研究會:第一回今月中旬開催:豊原商青聯主催▼
マッチ共販價格:商工省十五日告示▼研究用資材物動企畫院
案完了:不足資源の科学的補填へ:科学動員委員會決定▼切
符制の先輩:ドイツ國の近情▼營利主義を一擲し「商業報國
運動」實踐へ:全國六十萬組合員起つ▼切符制度の進展で小
賣商品「共販」へ:市内業者間に機運濃化▼店員道場・商工
圖書館:紀元二千六百年の本所事業計畫決まる▼本所定款一
部改正:事務局の機構を整備▼本所議員總會▼本所統制經濟
懇談會:徳永檢事長を囲んで▼薯を植えませ▼姿を消す水産
罐詰類▼【所舍使用状況】五月/六月▼【告示】物品・骨牌・
遊興飲食稅の法律改正による増, 新課税:商工, 大藏兩省の
方針決定す▼“商業小組合”制度 (承前):商業組合法中改
正内容 (商工省振興部商業組合課長 安田元七)

通巻第87號 (1940.7.20) /全4頁

▼【時言】“商工報國精神昂揚大會”開催の意義▼【解
説】マッチの切符制:附六大都市其他の實施状況▼【特編】
奢侈品等制限令規則解説:奢侈品の製造と販賣禁止の要項▼
事變記念日商工報國精神昂揚大會:統後の決意も固し:畫期的
盛會裡に終了▼商工事務研究會▼盛會を極めた實業運動會:
珍レースに抱腹す▼“闇の仲介者”嚴罰:店頭の商品は一々極
印附▼本所役員會▼女子店員補導講習會:廿二日から本所で
▼忙中閑有▼【組合ニュース】樺太ノート販賣組合/樺太菓

子加工業組合聯合會/豊原板硝子販賣業組合/豊原荷馬車營業
組合/樺太紙文房具商組合聯合會/樺太洋服商工組合聯合會▼

【時事解説】戰時經濟の報道機關はどう動いてゐるか? ▼
編輯後記

通巻第88號 (1940.8.10) /全4頁

▼【時言】價格マーク表示の意義▼昭和十五年度商工事務
研究會:行政の圓滑を期して盛澤山な議案を審議す▼樺商聯
合會開催▼釘, 針金配給に關しての注意▼【座談會】婦人
の立場から見た時局下の生活諸問題▼非常時商店經營刷新
週間:愈々十九日から實施:併て店頭裝飾競技會開催▼第二回
商組研究會:近く開催▼價格停止品協議會:内容説明▼女子店
員補導講習會:盛會裡に終了▼商組法實施延期▼視察團來
島▼【組合ニュース】酒類販賣業組合/豆腐製造業者大會/各
組合聯合會續々生る▼商店經營刷新週間 實施要綱細目▼
【會議所庶務日誌】自七月一日至七月三十一日

通巻第89號 (1940.9.10) /全4頁

▼【時言】新しい經濟体制 (商工大臣 小林一三) ▼“商
業報國運動”の全國的展開に就て (商工省) ▼【座談會】
婦人の立場から見た時局下の生活諸問題▼樺商聯定期總會
開く:物資需給調整を中心に▼非常時商店經營「刷新週間」
實施:店頭・飾窓競技も併せて▼價格表示マークと新製品に
對する解釈▼小麥粉四六七袋:全部製パン原料に▼鐵鋼配給
統制要領改訂さる▼釘割當九月末か?▼【組合ニュース】卸
商と分離して米穀小賣商組合組織/樺製聯第三回總會/配給適
正を期して菓子小賣組合生る/商工團體現在數▼知つて置く
べき租稅の梗概 (稅務相談部) ▼【會議所庶務日誌】八月中

通巻第90號 (1940.10.15) /全4頁

▼【時言】商業新秩序と新商業倫理 (商工次官 岸信介) ▼
青少年雇入制限令 九月一日より實施▼釘・割當決定▼所舍
増築十月下旬完成▼商業組合法と其の運營 附質疑應答 (北
海道地區商業組合聯合會理事長 岩崎國治郎氏/商工省振興
部商業組合課商業組合指導官 廣川銀一氏) ▼商組法を迎え
て 業者の聲を聴く:中堅處に舉る歡聲!▼【組合ニュース】
印刷製本組合結成/豆腐製造組合聯合會/生鮮食品移入組合/
全島興業協會結成▼商組講習講演會:興味ある質疑應答の内
容▼近頃の商人は愛想がない? お互に相戒めませう

通巻第91號 (1940.11.10) /全4頁

▼【時言】商業青年蹶起の秋▼生活は楽になるか:經濟新体制の方向▼商工青年聯盟隣道商組視察▼【十月中の商工相談所利用状況】▼樺製聯従業員表彰▼轉業相談部新設▼求人▼『日本經濟會議所』新設:全經濟界を統合組織 萬民翼賛經濟體制:日商の試案成る▼商業報國會:全市の業者を中心に:本所、具体的設立計畫へ▼新体制と商組法:惱む島の小賣業者:當局の轉失業対策注目▼青年より奮起せよ (山田忍三)▼『映畫と講演の夕』:来る下旬本所に開催▼轉業實話:菓子商から古着屋へ▼有限會社:合同企業の新形式▼【組合ニュース】旅館業者商組を企圖/蒲鉾業者聯合會を結成/ベニヤ板販賣組合聯▼本所・物故議員職員慰靈祭▼街の文化面をのぞく (楨生)▼消費者を無視した企業合同は成りたゝぬ▼開館近し:本所商工圖書館▼『既設組合』と『商業組合』 (商工相談所 竹内生)

通巻第92號 (1940.12.10) /全4頁

▼【時言】企業合同に對する一考察▼中小商工業者の職業轉換対策:企畫院▼商業者の企業合同:内地の模範的實例二ツ▼米穀商の企業合同:内地では續々展開▼全市八百商工業者の轉失業・企業合同問題調査:本所商工相談所乗り出す▼本所役員會:記念行事等を決定▼配給機構整備改善委員會▼皆で苦境打破:米屋さん團結:轉業に光:東京▼豊原地區商組設立研究會:全業種を網羅して結成▼聯合賣出會本年より廢止▼【十一月中の商工相談所利用状況】▼【組合ニュース】樺太履物組合聯合會/樺太茶商組合聯合會/樺太製粉組合/樺太陶器商組合聯合會▼隣道商組視察記 (豊商主事 紀伊梅彦)▼【隨筆】なかなかまどの實の赤さに就いて (齋藤隆介)▼【商工圖書館】▼編輯室

通巻第93號 (1941.1.1) /全4頁

▼【時言】新商業確立の年▼年頭の辭 (樺太廳長官 小河正儀)▼年頭所感 (豊原商工会議所會頭 小林隆平)▼年頭寸感 (豊商議員 北村良一)▼世界的急變革と我國 (豊商議員 稻垣利光)▼年頭の所感 (豊商常議員 井坂林平)▼年頭所感 (豊商議員 中村憲策)▼世紀を畫する時に際して (豊商議員 山中金治)▼微力ながら (豊商議員 石田長次郎)▼年頭の所感 (豊商議員 伊藤芳治郎)▼乗り切れ激浪目的の彼岸に (豊商議員 藤田松太郎)▼【十二月中の商工相談所利用状況】▼“紀元二千六百年”を送る本所の盛大な記

念行事:舊臘中旬四日間に亘つて展開/「記念館」開館式/商業報國會結成式▼勞働賃金指數:本所調査▼【商工圖書館】▼紀元二千六百年の回顧:本所の日誌に見る市内業界一ヶ年の動き▼後記雜感

⑤『豊原商工会議所時報』

通巻第94號 (1941.2.10) /全4頁

▼【時言】産業報國運動と新しい商人道▼本島商組設立指定方針決定:樺太廳・具体案を發表す▼本紙改題▼本所議員選舉人名簿縱覽を開始:有権者は總体に増加▼配給機構整備方針:商工省指示▼個人の營業純益に就て (相談所・竹内生)▼第一輯 (昭和十六年一月) 圖書目錄:豊原商工圖書館▼送れ戦地に銃後精神の彈丸を:本所主催恤兵展覽會開催:陸軍記念日を中心に▼本所新年議員總會:明年度の豫算を決定▼中小商工業者の有限會社化増進:十一月で二五七社▼下關商議本島視察▼豊原商青聯總會▼【商工相談所取扱件數】一月中▼本年度二期分釘の配給:來月に延期か▼【紙上商工相談】經營單位の擴充合理化とは▼時局歌▼本所主催第三回珠算競技會▼【組合ニュース】豊原雜貨商組合役員會/樺太大工業組合聯合會/樺太建具家具業組合聯合會/豊原装蹄師會/板金加工業組合長更迭▼【昭和十五年商工業關係法令】▼【商工圖書館】▼後記雜感▼【會議所庶務日誌】一月▼本所事務局整備を斷行▼本所収支經費豫算:昭和十六年度▼公告:昭和十六年度本所議員選舉權者名簿縱覽

通巻第95號 (1941.3.10) /全4頁

▼【時言】商業組合設立に邁進せよ▼商組の設立促進に廳、準備會結成懇懇:準備要綱を發表す▼中小商工業企業合同調:商工省▼國家總動員法令改正案内容▼本所主催 恤兵展示會:三月九・十・十一日▼豊原商業報國會:組織機構を確立し愈よ機能發揮に邁進:總務・事業・青年三部設く▼第三回配給機構整備改善委員會▼【紙上商工相談】商組準備會とは/商組が出来たら吾々は何うなる?▼【組合ニュース】肉商組合役員改選/樺製聯役員會と座談會/火災共済組合定時總會/玩具商組合役員改選/米穀雜貨仕入組合解散/樺太青果小賣商組合連合會/豊原百貨小賣商組合結成/豊原青果配給組合▼本所主催第三回珠算競技會▼最近三ヶ年間市内小賣物價標準指數表▼講演と映畫の會▼【商工相談所取扱件數】二月中▼【商工圖書館】新着圖書紹介▼【經濟日誌】自一月二十二日至二月二十四日 (企劃部)▼【會議所庶務日誌】自二

月一日至二月二十九日

通巻第96號 (1941.4.10) /全4頁

▼【時言】樺太國民奉公運動と新事業者の實踐▼島の翼賛運動 歴史的巨歩並に發足:「樺太國民奉公會」誕生す▼本所内山理事指導副部長に▼物價:高物價と生産力▼全市關係者を一丸に:商組設立準備會結成:愈よ具体的組織へ前進▼商工關係轉業者に聴く會:本所・今月下旬開く▼「商業實情調査」近く第二次實施▼莫大小査定會▼待望の“釘”配給開始中▼【紙上商工相談】商組と轉失業問題に就て/轉業の指導方針に就て/現金取引抑制に就て▼賣り手も買い手も笑顔で應對:商店街に「笑和運動」▼映畫と講演の夕:本月中旬開催▼【組合ニュース】地下足袋組合役員改選▼急募:女子會計事務員一名▼【商工圖書館】新着圖書紹介▼お願ひ▼【お知らせ】▼(写真)職域奉公▼【經濟日誌】自二月二十五日至三月二十二日(企劃部)▼時間勵行(總務部 紀伊生)▼商業實情調査について(企畫部)▼本所事務局人事移動▼本所恤兵展盛會▼【商工相談所取扱件數】三月中▼後記雜感

通巻第97號 (1941.5.10) /全4頁

▼【時言】國民奉公運動と清壮年▼公益優先▼會議所法一部改正▼商工相談所擴充:商工會にも設置▼これからの商賣は▼生活必需物資統制令に就て:企畫院▼商業組合とその租税に就て(企畫部 竹内生)▼樺太商報準備委員會開く:全島商報愈よ今月下旬結成▼隣道商組運營狀況を聞く座談會▼本所十五年度決算▼【市内四月物價】:一分八厘騰貴▼商組設立準備會:積極的活動開始▼經濟統制週間に本所映畫と講演▼「豊商双葉會」生る▼【紙上商工相談】▼【商工相談所取扱件數】▼【商工圖書館】若き小店員諸君へ/新着圖書紹介▼お願ひ▼【組合ニュース】建具家具聯創立總會/時計商組合従業員表彰/藥業會名称變更/鐵工業組合產業報國會/大工聯合會創立總會▼【隨想】店員と娛樂(總務部 紀伊生)▼經濟統制法規一覽表:昭和十六年四月七日現在▼樺太開發:來月十日第二回委員會▼三宅氏本月中旬出發の豫定

通巻第98號 (1941.6.10) /全4頁

▼【時言】物價問題に對する一考察▼機構改正要綱建議:綜合的經濟團體の機能發揮へ:日商臨時總會で決議▼昨年度の貯蓄實績▼樺太商報會發足:全島十五商報傘下に/長官告辭

▼全面的公價設定:物價委員會活用▼商工事務研究會▼新商道樹立運動! 本所全市業者に呼びかけん▼七・七禁令改正:政府禁制品を追加▼戰時下の商工相談:本所十五年度の執務狀況▼三月末現在の市内勞働賃金:二分八厘騰貴▼賑ぎはふ商工圖書館▼商報指導者講習に豊原市から山吹氏▼【商工相談所取扱件數】五月中▼本所初の野球戰:記者團に惜敗▼【紙上商工相談】▼【組合ニュース】纖維聯合會組合長會議/火災共済組合役員會/煙草販賣組合總會/大工組合樺太廳へ陳情/豆腐製版組合總會▼「滿鮮を視察して」:特に經濟事情に就ての感想(本所理事 内山四男也談)▼【經濟日誌】自四月廿五日至五月廿四日(企劃部)▼職員部屬再整備▼事務局メモ▼議員總會▼懸賞募集:店員従業員諸君の「職場に於ける感激實話」▼『新商道樹立運動』實踐プラン成る

通巻第99號 (1941.7.20) /全4頁

▼【時言】豊原商業組合の設立と事業者の心構へ▼豊原商組發足:十三日創立總會開催▼豊原商組設立迄の經過▼【座談會】新商道樹立運動に就て:七月三日午後七時本所會議室に於て▼多大の成果を舉げて本所の“新商道樹立運動”週間閉幕:業者に今後の實踐を要望▼感激實話入選者決まる▼經濟視察團:初夏陸續と來島▼【組合ニュース】樺太移入聯合會解散/糧穀會社事務所移轉/豊原商組事務所開設/樺太藥種卸商組合改称/豊原麥酒配給協議會▼吾等に殘された大いなる課題(企畫部 竹内生)▼優秀入選:職場に於ける感激實話(齋藤はぎの)▼店員従業員修養會:本所全市の銃後鍊成に▼【經濟日誌】自五月廿五日至六月廿四日(企劃部)▼豊原商業組合役員決定す▼【最近の公定價格】五月中に告示された最高販賣價格/六月中に告示された最高販賣價格

通巻第100號 (1941.8.15) /全6頁

▼【時言】本紙の使命▼發刊百號を祝して(樺太廳商工課長 栗山松一)▼商報雜感(鈴木莊一)▼増税(企畫部 加藤生)▼百號雜感(企畫部 竹内生)▼「商業組合報欄」新設▼【解説】暴利行為等取締規則改正:買占・賣惜・抱合販賣等禁止▼公價の眞意解明:當局, 告示用語を改正▼營業免許制愈よ實施か▼國民貯蓄組合報とは▼“商業報國”の店:本所市内に廿八店を選定▼時艱の克服に日商宣言發す▼【組合ニュース】地主主組合創立準備會/纖維外商組聯合會創立▼製材聯合會定期總會▼小店員に朗報:豊原 公休日を月二回に統制(内山理事長談)▼【最近の公定價格】七月

中に告示された最高販賣価格▼北方的性格についての覺書 (大橋一良) ▼【經濟日誌】自六月廿五日至七月廿四日 (企劃部) ▼【豊原商業組合報】豊原商業組合創立總會を終りて (理事長 小田島末藏) /役員會/部會結成記録/豊原商業組合員名簿

通巻第101號 (1941.9.10) /全4頁

▼【時言】經濟團體の再検討▼【豊原商業組合報】製パン企業一元化:菓子部に「パン共製所」設置/【庶務日誌】八月▼勤勞青少年に読書指導:全國に“圖書群”運動▼鍊成商業者に感想を聴く:“新商道確立の尖兵へ”:本所主催第一回商業者鍊成講習會・出席者の座談會▼職域奉公に挺身!商業者鍊成講習會開く▼商業者鍊成講習會の体験を語る (中村憲策) ▼商業者鍊成講習會に臨んで (二上長治郎) ▼【組合ニュース】樺太纖維具服商組合連合會/樺太理髮業組合連合會▼【最近の公定價格】八月中に告示された最高販賣價格▼【經濟日誌】自七月二十五日至八月廿四日:企劃部▼女店員講習會:本所が開催中▼八・一一停止令▼公休日二回と決定▼高浦太郎氏 (永眠)

通巻第102號 (1941.10.10) /全4頁

▼【時言】商業青年と鍊成▼現下の商工政策に就いて:九月八日講演要旨 (左近司商工大臣) ▼【最近の公定價格】九月中に告示された最高販賣價格▼【經濟日誌】自八月廿五日至九月廿四日 (企畫部編) ▼銃後女性の職域奉公譜:第二回女子店員講習會:本所相談所主催で開く/女子店員補導講習會に出席しての感想▼營業の自治的統制へ:全島商組に委員會設置▼轉業明朗譜 翼賛一色で働く中村又次郎さんを訪れて:精肉商から人力車夫へ (大橋一良) ▼【紙上商工相談】商店公休日日に就て/國民貯蓄組合法に就て▼街頭現地報告街の飾窓みてある記 (榎美佐夫) ▼玩具の歌 (齋藤隆介) ▼生活の歌 (内山華子) ▼【商工圖書館】

通巻第103號 (1941.11.10) /全4頁

▼全責任をもつて有言實行 (新商相 岸信介氏談) ▼“金屬特別回収令實施”:本所鐵柵, 國策への應召▼企業合同に關する講習會▼空襲下の生活必需品:配給防衛私見 (樺太國民奉公會指導部副部长 内山四男也) ▼報告 全國商工相談事務協議會:東京・於日本商工會議所:10月9・10日:行く處までゆく政府の臨戰施策▼拓銀・樺銀合併成る:一問一答 “色々

な懸念はさらにない” ▼戰時下に於ける配給部門の尖兵 ■ 測たる商店員の興味ある回答▼商店員は何が好き?▼【雨風隨筆】樺太犬の如く (齋藤隆介) ▼【組合ニュース】企業合同に就て (土肥榮四郎) ▼謹告▼庶務ノ要件▼【最近ノ公定價格】九月中ニ告示サレタ最高販賣價格▼告▼委託販賣小ばなし(1)▼【經濟日誌】自九月二十五日至十月二十四日 (企畫部編)

通巻第104號 (1941.12.10) /全4頁

▼【時言】年末所感▼日商立案を建議:税制による生活必需品消費機構組織化対策▼朗らかに! 和やかに!:商組經營の指針▼中小商工業者再編成案:大政翼賛會發表▼生産, 配給, 消費三者が一体となつて:商業報國運動と消費報國運動▼改正税制による公定價格:物品税の算出は斯うして▼パン焼く手にビート抜き 商組菓子部の活躍:美し! 商組, 産組の握手▼本所勤務戰時体制▼全島のトップ切つて近く竣工する共同製パン工場▼商店員商業者修養鍊成を計る豊原商工道場:時代に即し新發足▼【商工圖書館】▼【隨筆】こがら (佐々木哲夫) ▼戰時の配給機關として商組制度全面的改正▼委託販賣小ばなし (2) ▼既住五ヶ年豊原市内小賣物價ノ趨勢▼【最近ノ公定價格】十月中ニ告示サレタ最高販賣價格/十一月中ニ告示サレタ最高販賣價格▼【時報常會】▼消費規正一段と強化▼【經濟日誌】自十月二十五日至十一月二十四日 (企畫部編)

通巻第105號 (1942.1.1) /全4頁

▼【時言】東亞の黎明▼年頭の辭 (豊原商工會議所會頭 遠藤實) ▼謹告:會頭選任▼年頭の辭 (樺太廳長官 小河正儀) ▼年頭所感 (豊商議員 北村良一) ▼年頭雜感 (豊商議員 中村憲策) ▼年頭所感 (豊商議員 安藤正之助) ▼小賣店ノ任意企業合同ノ的確基準 (日本能率連合會商業經營專門委員 新保民八) ▼本所附屬圖書館開館一周年記念:絢爛多彩圖書祭終る▼釘・割當さる▼配給戦線異常なし:商店員に覺悟を聞く▼【紙上商工相談】▼昭和十六年の回顧 本所日誌に見る業界の動き▼【豊原商業組合報】年頭の辭 (豊原商業組合専務理事 土肥榮四郎) /樺太のトップを切つて米英撃滅大會開く▼【最近ノ公定價格】十一月中ニ告示サレタ最高販賣價格/十二月中ニ告示サレタ最高販賣價格▼【經濟日誌】自十一月二十六日至十二月十三日 (企畫部編) ▼商人訓▼【商工圖書館】新着圖書紹介▼後記雜感

通巻第106號 (1942.2.10) /全4頁

▼【時言】消費規正を徹底せよ▼【解説】企業許可令とは▼經濟道義の昂揚運動:澎湃として全國に起る:商報本部・翼賛會・物價協力會議主催▼道義昂揚と商報の方針:各種具體的事項指示▼本所議員總會▼【一月中ニ告示サレタ最高販賣價格】(業務部)▼招く白銀の白蛇山スロープ 本所主催スキー遠乗會:“雪のよろこび”に湧く歡呼:女性群も參加盛會極む▼豊原火災組合解散に決定す▼現行業者は一人残らず報告する様:本所周知徹底の衝に當る▼動績従業員表彰紀元節に舉行▼商報運動積極化▼第四回珠算競技會 来る二十五日開催▼【商工圖書館】▼【紙上商工相談】▼商業組合のことども(伊藤勝彌)▼【經濟日誌】自十二月十四日至一月二十四日(企畫部編)▼編輯後記

通巻第107號 (1942.3.10) /全4頁

▼【時言】殉國の大義▼經濟道義昂揚運動:戰時配給に打ち樹てる畫期的新道標:三月八日から展開▼經濟道義の昂揚目指す:豊原商報の實施要綱▼企業の再編成を目指し企業整備令を近く交付:勅令案要綱決定▼戰時勞務動員の完璧を期し勞務調整令施行せらる:二月二十五日廳令第二十五號▼一切を國に捧げる秋(豊原商業報國會會長 小田島末藏)▼敢闘精神はこの時:配給戦線の武器磨く珠算競技會終わる:優勝カップは雜貨部會へ▼競技會雜記▼商工青年連盟發展の解消▼動績従業員表彰式:紀元の佳節をとし舉行▼【商工圖書館】▼行列買をやめませう▼【時報常會】▼【紙上商工相談】▼【豊原商業組合報】味噌醬油配給實施に就て(豊原商業組合囑託 齋藤恭市)/信用事業の開始/菓子業者の企業合同/事務抄録/“商報機”献納運動:舉がる完納の凱歌/雜感▼【經濟日誌】自一月二十五日至二月二十五日(企畫部編)▼【二月中ニ告示サレタ最高販賣價格】(業務部)

通巻第108號 (1942.4.10) /全4頁

▼【時言】商業の有用性確保の途▼經濟道義昂揚に就て(樺太地方裁判所部長 喜多川元)▼“前會頭小林隆平氏 日商に於て表彰する”▼南方物資への期待は別だ:中小商工業者整理は必然:政府要領を發表▼轉業者は榮譽ある戦士:當局積極的支援▼【お知らせ】▼私共商業婦人の進む道(豊原商業報國會婦人部長 小田島みつ氏挨拶)▼經濟道義昂揚週間:大東亞建設の礎石たらん:豊原の行事かくして終幕▼必勝

体制化:相談内容にみる昭和十六年度の業界(商工相談所發表)▼【職場の素描(1)】生擴戦線に挺身の熱と誠の人 田口稻吉さん▼【紙上商工相談】▼【時報常會】▼【豊原商業組合報】豆腐類の切符制配給/出資金第二回拂込/人事/事務抄録/第一回臨時總會招集▼【經濟日誌】自二月二十六日至三月二十四日(企畫部編)▼【三月中ニ告示サレタ最高販賣價格】(業務部編)

通巻第109號 (1942.5.13) /全4頁

▼【時言】違法と必勝不敗(豊原地方裁判所検事局検事正 鈴木庄太郎)▼商業報國運動の擴大強化に就て(商工省發表)▼「商報」大改組▼昭和十七年度本所經費收支豫算書▼樺太に衣料の通帳制:まこと自肅生活の記録:自發的消費規正要望▼勞務對策強化:勞務調整規則の運用方針を決定▼生活必需品配給機構整備方針:樺太廳決定▼4月8日誓ひも新らた 臣道實踐の大道に邁進!!:商工業者誓ひの集ひ▼【職場の素描(2)】この人にしてこの決断あり:果物屋さんから放送局員へ 大畑金助さん▼【お知らせ】▼【時報常會】▼國民詩 大詔奉戴:樺太國民報國會▼【豊原商業組合報】組合並に組合員の目標/商連の設立具体化す/理事長會議招集▼【經濟日誌】自三月二十六日至四月二十五日(企劃部)▼【四月中ニ告示サレタ最高販賣價格】(業務部)▼事務抄録

通巻第110號 (1942.6.10) /全4頁

▼必勝体制の緊張裡:重要經濟議案を審議:全國會議所理事會▼實情第一主義:小賣業の整備:企劃,指導は地方色▼風薫る七月上旬:實業運動會開く▼【隨筆】樺太人になる(星野龍猪)▼【職場の素描(3)】休む暇なき水車:働く人の範 中村又次郎さん▼私の愛読書▼【豊原商業組合報】自由商品の共同仕入に就て/事務抄録▼贈答史一片▼【時報常會】▼【御知らせ】▼【四月中ニ告示サレタ最高販賣價格】(業務部)▼【經濟日誌】自四月二十六日至五月二十五日(企劃部)

通巻第111號 (1942.7.10) /全4頁

▼放送要旨:企業整備令施行に際して(樺太廳商工課長 蜂須賀芳太郎)▼全國商工會議所調査機關連合會の新設▼小賣業の整備はどうなるか:その特色と長所を生かす當局の方針▼われ等の任務は二百三十億だ!!:貯蓄報國を叫ぶ 松川岩吉さん▼【商工圖書館】▼【季節のずるひつ】つり談義

(大橋一良) ▼【時報メモ】▼貨物の包装はもつと嚴重に▼
【時報常會】▼プール準準備▼【六月中ニ告示サレタ最高
販賣價格】(業務部)▼豊原經濟野球連盟リーグ戦日より
▼【經濟日誌】自五月二十六日至六月二十五日(企劃部)

通巻第112號 (1942.8.10) /全4頁

▼【時言】戦時下に於ける防諜に就て(豊原憲兵分隊長 奥
田信一)▼國民詩 大詔奉戴:樺太國民報國會▼運賃の値上
と物價並に物資流通の諸問題:日商對策を考究▼明るく元氣
な顔で戦つてゆこう:胸間にマークをつけ‘有難う’の實踐へ!
▼至誠配給の一語:岸商相全國商報會員に訓辭▼全國小賣物
價四厘の低落(商工省總務局調査課発表)▼國民更生金庫
誘致:愈々本極りか▼商工業者錬成大會第1回▼奉公窓と銘
打つて飾窓を動員:本所職員が街頭へ進出飾付▼文化につ
いて(翼賛會高橋文化部長談)▼川邊克氏寄贈:商工圖書館へ
蔵書二百廿冊▼錬成大會スケッチ▼商報運動の最下部機關:
豊商報五人組制度確立す▼【商工業關係法令】六月中ニ公
布サレタモノ▼【經濟日誌】自六月二十六日至七月二十五
日(企劃部)▼新着圖書紹介(圖書目錄第二號以後の分)
▼【六月中ニ告示サレタ最高販賣價格】(業務部)▼【御
知らせ】

通巻第113號 (1942.9.13) /全4頁

▼利己の商人道徳を揚棄せよ:「すめらみ民」として礎け大
東亞(商業報國會中央本部長 喜多壯一郎氏訓辭)▼傷夷軍
人遺家族慰問の夕▼一死皇國に報いん:第一回商報大會開く
▼商工會議所職員錬成會開く:本所より竹内主事出席▼時局
色を盛上げ:第三回女子店員補導講習會開く▼政府の施策に
協力 小賣業の實態調査:豊原近日開始▼衣料体制の組織全
く成る:纖維配給會社に期待:山中專務の挨拶▼一〇〇點, 八
〇點:内地その後の衣料切符:絹織物を中心として▼南方配給
業務へ:中小業者派遣▼仏頂面を“有難う”で吹き飛ばせ:親
切と感謝を生活に盛上げよ▼奉公窓みてある記▼【時報メ
モ】▼有難う! 笑顔續けて二十五年:岡本さんに聞く“有難
う”哲學▼議員消息:藤田松太郎氏/伊藤芳治郎氏/杉本孝作
氏▼【商工業關係法令】八月中ニ公布サレタモノ▼【經濟
日誌】自七月二十六日至八月二十五日(企劃部)▼【八月
中ニ公布サレタ最高販賣價格】(業務部)▼二, 三のこと
▼【時報常會】

通巻第114號 (1942.10.15) /全4頁

▼竹内殖産局長(拓務省)に樺太の諸問題を聴く▼商工事
務研究會:豊原で開催▼樋口忠吉氏(逝去)▼感じたこと:全
國商工會議所職員錬成會:既に生命は奉還 國民は職場の部
分品:竹内徳明▼商工行政の新動向:産業の科学的組織化へ▼
東部國民勤勞訓練所:見學餘滴▼軍人遺家族慰問の夕:公共劇
『郷歸』など異色ある番組に大好評▼大東亞戦下:我等女性
の決意更に新たなり:女子店員補導講習會終る▼【時報メ
モ】▼公共劇紙上紹介『郷歸』一幕:樺太文學會演劇部贊助
講演▼ありがとう談義▼【經濟日誌】自八月二十五日至九
月二十六日(企劃部)▼【九月中ニ告示サレタ最高販賣價
格】(業務部)▼【商工業關係法令】九月中ニ公布サレタ
モノ▼【御知らせ】▼勤勞顯功章

通巻第115號 (1942.11.10) /全4頁

▼經濟會議所設置:戦時經濟の強力推進▼商組と産組の連絡
提携を強調:樺太廳通牒を發▼軌道に乗る轉廢業對策:國民更
生金庫愈々店開き▼小賣業實態調査委員決る▼第三回中央
協力會議における經濟問題に關する論議(豊商理事 内山四
男也)▼「大東亞戰爭完遂決議」:大政翼賛會中央協力會議
▼全島商工會議所商工會を動員:廳小賣業實態調査開始▼共
助金の課税問題(内地)▼轉業現地報告 これは勿体ないと
食肉増産へ厨芥利用:中村養豚場を訪ねて▼街頭現地報告
書籍店をのぞく:読書の傾向は如何?▼【時報メモ】▼貯蓄
功勞者表彰の榮に輝く 松川岩吉さん▼亡き夫に代わつて敢
然勤勞奉仕:戦ふ女性の意氣示す山本さん▼【商報雜記】▼
【ずゐひつ】吹雪は樂し▼議員消息:小田島末藏氏/井坂林平
氏/土肥榮四郎氏▼【經濟日誌】自九月二十六日至十月二十
五日(企劃部)▼【最高販賣價格】十月中ニ公布サレタモ
ノ▼【商工業關係法令】十月中ニ公布サレタモノ

通巻第116號 (1942.12.10) /全4頁

▼大東亞戰爭一周年記念日を迎ふ:八日・大詔奉戴日▼商業
報國運動と企業整備(樺太廳商工課長 蜂須賀芳太郎)▼
“勤勞顯功章”:商業者にも受領資格▼小賣業者の轉廢業:資
産評價基準問答▼昭和十七年豊原商工會議所:事業回顧▼
【商報雜記】豊北支部發足:支部長に山下氏/北海道地區商報
功勞者表彰▼【ずゐひつ】歴史▼感激は“めぐる”:聖戦一
周年 豊原商業報國會の足跡をみる▼【經濟日誌】自十月二
十六日至十一月二十五日(企劃部)▼【商工圖書館】新着

圖書紹介▼【十一月中に告示サレタ最高販賣價格】▼雜報

通巻第117號 (1943.1.1) /全4頁

▼農村新年 (岸田泰政) ▼年頭所感:經濟戦力増強に邁進せむ (豊原商工會議所會頭 遠藤實/豊商議員商組専務 土肥榮四郎/豊商議員商報指導部 山吹孝三/豊商議員樺鐵専務 山中金治/豊商議員 齋藤芳太郎/豊商議員 安藤正之助/商組理事商報指導部 山崎達二/豊商議員 中村憲策) ▼年頭所感 (樺太洗染商業組合理事長 木村明) ▼年頭所懐 (豊原商業報國會推進員 竹田初三郎) ▼年頭所感 (豊原商業報國會推進員 木村義治) ▼年頭雜感 (豊原商業報國會推進員 西村一) ▼年頭所感 (豊原商業報國會 高田英吉) ▼御苦勞さん▼大詔奉戴一周年:豊原商業報國會の記念行事開催▼生産力増強こそ必勝の鍵:樺太印刷の總進軍▼【商報雜記】▼新年のことば▼年頭に題す (豊原商業報國會長 小田島末藏) ▼【經濟日誌】自十一月二十六日至十二月十七日 (企劃部) ▼【十二月中ニ告示サレタ最高販賣價格】 (業務部) ▼【商工業關係法令】十一月中ニ公布サレタモノ/十二月十七日マデニ公布サレタモノ▼召集令の來る日まで (福田漁業配給所 福田作太郎) ▼お酒に點數制採用:長野縣下の試み

通巻第118號 (1943.2.15) /全4頁

▼【時の言葉】心の處方 (豊原警察署長 三上正之) ▼謹告:内山四男也辭任▼豊原商報の恤兵献金:二千六百圓を▼増税と貯蓄▼内山山理事藏書其他を寄贈▼理事事務取扱に紀伊主事▼隣道に視る:小賣業整備は如何にして行はれつゝあるか▼商業再編成の促進に移動展覽會開く:十五日本所樓上で▼内山四男也氏東京宅▼【解説】商業報國篇“われ祖國と共に”▼映畫寸感 表情▼【豊原商業組合報】疊材料配給統制に就て/【庶務日誌】一月/菓子部臨時總會/【商報雜記】▼【經濟日誌】自十二月十八日至一月二十五日 (企劃部) ▼【最近の公定價格】自十二月十九日至一月三十一日

通巻第119號 (1943.3.9) /全4頁

▼【時言】大東亞戰爭現段階に於ける國民動員 (樺太廳勞政課長 田口稔) ▼商業組合法對商工組合法:比較一覽表:議會通過▼“われ祖國と共に”:絢爛經濟道義昂揚週間終る▼決戦に應へる敢闘譜:本所主催珠算競技會:団体優勝は樺太電氣會社へ▼【時報メモ】▼【豊原商業組合報】商工組合法案に就て/店員教育/轉廢業交付要綱:共助費補助金/豊原商業

組合小賣業實態調査實施▼【經濟日誌】自一月二十六日至二月二十五日 (企劃部) ▼協同読書に就いて▼【最高販賣價格】

通巻第120號 (1943.4.10) /全4頁

▼【時言】國民運動實踐上の問題 (樺太國民奉公會指導部 副部長 星野龍猪) ▼“預金利率を下げ”:二百七十億達成へ:金融統制協議會の斷▼賣薬部外品の全面的廢止か▼發明特許に動員令:戦力増強へ全面開放▼殉職經濟戰士“合同慰靈祭”▼【商工業關係法令】自十二月十九日至三月三十一日▼北海道に十一ヶ所:轉業者指導職場開設▼産報らを國奉へ:商報運動愈々活潑▼臨時利得税の増徴▼劣る商業者の体力:鍛へよ体 健民奉公 (豊原經濟体育連盟企劃部長 上野雄志郎) ▼標語:サトウ▼經濟寸感 總力戰經濟▼【時報メモ】▼【三月中ニ告示サレタ最高販賣價格】 (業務部) ▼【十七年度商工相談所利用状況】▼【豊原商業組合報】菓子配給統制要綱の改正に伴ふ樺太菓子配給統制協議會の改組に就て (保證責任豊原商業組合常務理事 山崎達二) /菓子配給統制要綱/【商報雜記】/事務監査施行に就て/豊原商業組合小賣業實態調査中止/主ナル會合:三月▼【經濟日誌】自二月二十五日至三月二十六日 (企劃部)

通巻第121號 (1943.5.10) /全4頁

▼一票の棄權者なく:大東亞築く力だこの一票▼本所議員總選舉執行:五月十五、十六日於本所樓上▼各主要港荷役力増強:小樽廿六割其の筆頭▼菓子の公價改訂:砂糖特別消費税に伴ひ▼昭和十八年度豊原商工會議所經費収支豫算▼商工經濟會の構想を見る:全國理事會議に出席して (紀伊梅彦) ▼食料品關係移入卸団体の懇談會生る:四月二十七日於本所樓上▼格別特免綿織物近く配給:綿配會社から▼發足は本月中か:全國商工會議所珠算振興連盟▼【昭和十七年度商工相談所取扱件數調】▼最高販賣價格:十萬を突破▼湖北の豆戰士は闘ふ!!越澤鐵工場の花形 富士勇君に抱負を聞く▼【商工業關係法令】四月中ニ公布サレタモノ▼奉公窓▼街に拾ふ 健民小話▼一千の汗を奉仕:食糧増産に商報婦人部▼【四月中ニ告示サレタ最高販賣價格】 (業務部) ▼【經濟日誌】自二月二十六日至三月二十五日 (企劃部) ▼小賣業整備の喫緊性 (樺太商業報國會本部主事 佐藤林) ▼五月二十日“愛林日”▼【豊原商業組合報】出資の移動/主ナル會合:四月/第二回通常總會開催/轉業者に感謝状/賦課金をお納め下

さい/【時報メモ】

通巻第122號 (1943.6.10) /全4頁

▼決戦色を反映:生活必需物資計畫成る▼會頭選任通知:會頭遠藤實 副會頭杉本孝作▼遵法精神の具現▼當選御禮▼一路増産へ:物價対策に妙味:價格報奨制その他▼決戦物資の増産へ:一億いまだ赤樺▼燃える闘魂▼新議員の言葉:中村憲策/齋藤泰吉/安藤正之助/齋藤芳太郎▼國民皆働▼辻説法 そのお買物はちよつとお待ち下さい▼【辻小説】アリユーシアンへは俺がゆく (經濟記者俱樂部提供 上野雄志郎)▼樺太東岸造船所合同新發足▼樺太の沖合漁業▼モンベ談義 (一良)▼一億追慕の巨人に捧ぐる哀悼:豊原商業報國會“故山本元帥國葬銘記行事”▼【五月中ニ公布サレタ最高販賣價格】(業務部)▼【商工業關係法令】五月中ニ公布サレタモノ▼【經濟日誌】自四月二十六日至五月二十五日 (企劃部)▼商工省委員の小賣業整備實施状況調査報告▼小賣業整備後の殘存業者の覺悟▼物品税課税標準申告▼編輯後記

通巻第123號 (1943.7.20) /全4頁

▼會頭を中心に指導者原理の滲透へ:商工經濟會の性格を見る▼商工經濟會事業試案▼物々交換取締り:物價連絡會議で答申▼配給所員の心構へ (樺太食糧營團理事長 武藤公平)▼街の話題:生駒商店廢業/商業者からも送る少年航空兵▼雄魂に續かん:行人を止む大壁畫▼痛憤極まりて決意は新た:“アツツ魂に續け”運動:本所と商報が展開▼この一鰭が戦力増強:湖北の土に挑む闘魂:樺太拓殖道場に商業者の子弟を訪ねて▼【豊原商業組合報】商工組合のはなし/役員, 委員の改選/主ナル會合:五月/看板應召/定款變更認可/防空標識類の斡旋▼【六月中ニ公布サレタ最高販賣價格】(業務部)▼【商報雜記】▼編輯後記

通巻第124號 (1943.8.20) /全4頁

▼思想國防:個人主義自由主義の終熄▼多年の懸案を解決:統制會社勅令公布 九月▼全國に商報協議會▼決戦段階に即應する企業整備の全貌:問答▼豊原商報勤勞奉仕隊隊員の登録成り:活潑なる運動を開始▼笑顔と笑顔で銃後は明朗に:“ありがたう運動”の展開▼移轉する生駒商店▼推進隊陣容成る▼【經濟日誌】自五月二十六日至七月二十五日 (企劃部)▼【豊原商業組合報】部會幹事改選/金融業務案内/古薬繩の回収/商品價值のない代用品:製造業者への要望▼【七月中ニ

公布サレタ最高販賣價格】(業務部)▼理事補缺選任:臨時總會で決る

通巻第125號 (1943.9.15) /全4頁

▼終刊のことは▼二十年を顧る:豊原商工会議所史▼創立は十月一日か:樺太商工經濟會第一回設立委員會▼樺太商工經濟會の初代會頭に遠藤實氏▼企業整備質疑應答 (承前)▼お母さんに逢ひに來た:少年工郷土部隊:暑さもなんのその僕等は益々元氣です▼戦ふ商店街▼經濟話題:トンネル會社/債權保有會社/戦勝税▼【辻小説】“かれひ” (大橋一良)▼親切と感謝の統制經濟 (帆足計)▼【經濟日誌】自七月二十七日至八月二十六日 (企劃部)▼落葉▼【八月中ニ公布サレタ最高販賣價格】(業務部)▼【豊原商業組合報】塵紙石鹼の適正配給へ:調整懇談會開催/業域國民貯蓄組合結成

(3) 戦時下の活動と記事内容 (6)

1943年の商工經濟会への改組は, それまでの町単位の組織から, 樺太全島を包括する組織へと変わることを意味していた。これに伴い誌名が⑥へと変わり, 豊原だけでなく樺太全島が対象となった記事が掲載されるようになった。形態は新聞体ではあるが若干サイズが変わり (26×18cm), このため頁数が増加した。

この時期には, 行政と一体化して開催される「樺太經濟懇談会」をはじめとして, 官民合同で組織する各種懇談会の記事が目立つようになる。同時期の他地域について指摘されている, 商工会議所の独自性が喪失し行政の下請機関化が進むとの状況は, 樺太においても同様であったことが窺える。また, 戦争經濟の進展に伴い, 前の時期では制度紹介などにとどまっていた企業整備や商工業者の転業の問題が, 具体的なものとして大きくクローズアップされてくる。転業関係記事では当初, 炭鉱と農業とが主な転進先として紹介されていた。しかし, 次第に農業が中心となり, 転業美談や転農者の現況報告などが多く掲載されるようになる。つまり, 転業した島内商工業者が, 激減の一途を辿っていた樺太農業移民の補充に充てられていくのである。この点は日本統治下の樺太農業移民政策が, 戦

中期にどのような帰結を迎えるのかを解明する上で重要な問題であり、今後の検討が不可欠であると考えている。

1940年代は各植民地において情報秘匿が進み、その実態の把握が困難になる。樺太では1942年の内地編入後に、樺太庁刊行物や同地で発行されていた新聞・雑誌類などの刊行が激減し、この時期の情報は一般的な事情ですら入手しづらいのが現状である。それだけに、1945年3月までほぼ通観することが出来る「本資料」は、商工業者についてのみならず、1940年代の樺太全般についても多くの情報を得られる、樺太史研究上において極めて有益な資料であるといえよう。「本資料」の利用によって、内山四男也編『豊原商工会議所十五周年史』（1938年）編纂以後の時期について、商工業者の活動動向を埋めることが可能になるだろう。これにより、戦前出版された樺太庁編『樺太庁施政三十年史』（1936年）や、その戦後復刻版ともいえる全国樺太連盟編『樺太沿革・行政史』（1978年）、あるいは樺太終戦史刊行会編『樺太終戦史』（1973年）などで断片的な姿しか描かれてこなかった在樺太商工業者の活動について、そのイメージを大きく塗り替えることが可能であると考えている。

⑥『樺太商工經濟會報』

通巻第126號（1943.11.25）/全16頁

▼樺太商工經濟會の發足に際りて（會頭 遠藤實）▼樺太産業經濟界への要請（常務理事 下出繁雄）▼樺太商工經濟會新發足を祝して:全島商業者の協力を切望（樺太商業組合連合會理事長 高橋弥太郎）▼商工經濟會の發足に際して（樺太廳經濟部長 井井八州雄）▼商工經濟會發足に寄す（樺太地方裁判所檢事局檢事正 清水直）▼樺太商工經濟會の新發足に希望す（拓殖銀行豊原支店長・國民更生金庫豊原出張所長 宮本賢吉郎）▼全國商工經濟會創立總會▼商工組合法に依る統制組合施設組合の設立についてお願い▼北方の資源を重視せよ（敷香町長 松尾鎮治）▼樺太商工經濟會に囑す（樺太商工經濟會々員 知取 安田長一郎）▼樺太商工經濟會創立總會:全議案を可決:世紀の出發を遂ぐ▼長官告辭（樺太

廳長官 大津敏男）▼【解説】商工組合の設立まで▼賦課金納付方法と御注意▼小賣業整備方針と注目すべき動向:綜合配給機關の登場など▼【資料】生活必需品商業關係組合機構整備方針▼小賣業（追加）接客業者と中小工業者の資産評價基準決る▼土木建築業統制機構整備要綱▼実績補償生活援護:共助金制度に新要綱▼事務局機構▼本會役員▼商工經濟會の事業▼本會ノ支部並ニ支部長▼昭和十八年度樺太商工經濟會經費賦課徴収方法▼昭和十八年度經費収支豫算書:自昭和十八年十月至十九年三月▼【最高販賣價格】自十月一日至三月三十一日▼【商工業關係法令】自十月一日至三月三十一日▼高木博士講演會開催▼【經濟日誌】自十月一日至十月三十一日▼【庶務日誌】▼【餘録】

通巻第127號（1944.1.10）/全12頁

▼天地清浄:昭和十八年の回顧（常務理事 下出繁雄）▼樺太商工經濟會に寄す（大泊町長 會澤武夫）▼樺太商工經濟會に期待す（評議員 木谷留次郎）▼産業經濟の指針を究む:官民合同決戦經濟懇談會開催▼作戦、生産の一体化:事務局長會議で方策を練る▼大泊港埠頭荷役状況を視て（業務課長 岩科義武）▼【資料】商工組合法施行に伴ふ各種組合機構整備方針▼【資料】鋸工業の統制組合設立に關して▼【資料】軍事教練用品配給機構整備に關して▼【資料】主要工場事業場従業員に對する綜合配給▼法團法人日本包装協會強化方策具体案▼人事▼【最高販賣價格】自十一月一日至十一月三十日▼【經濟日誌】自十一月一日至十一月三十日▼【庶務日誌】▼【商工業關係法令】▼【餘録】

通巻第128號（1944.1.26）/全8頁

▼【時言】生産決戦へ▼年頭所感:生産に生命を賭さむ（會頭 遠藤實）▼統制會社令解説▼男子就業の禁止に就て▼國民動員質疑應答抜萃▼【資料】燃料關係団体改組方針▼土建關係職別工事業統制組合設立打合會協議事項▼本州の代用品▼社會機能の健全:施設勢力の重點轉換:接客業者整備要綱發表▼小賣業整備要綱實施に伴ふ各團體の協力方針▼年末年頭の出貨能率向上へ:『決戦輸送強調旬間』展く▼【最高販賣價格】自十二月一日至十二月二十五日▼【經濟日誌】自十二月一日至十二月廿五日▼【庶務日誌】自十二月一日至十二月二十五日▼【商工業關係法令】▼【餘録】

通巻第129號（1944.2.25）/全12頁

▼【時言】樺太企業整備の根本義▼樺太商工經濟會運営要綱▼小賣業整備要綱發表に際して(會頭 遠藤實)▼【最高販賣價格】自十二月二十五日至一月二十五日▼樺太小賣業整備要綱▼本會地區別協力機關:樺太經濟調查協力會設置▼戦力増強:企業整備協力委員會設置:州小賣業整備へ本會の協力▼樺太戦力増強企業整備協力委員會規約▼樺太小賣業整備要綱解説▼州産業經濟を論議:本會第一回「支部長會議」開催▼勞務充足と婦徳の涵養へ:女子職業輔導所開設▼出版事業整備要綱▼州内定期刊行物七十二を整備▼戦力増強對策を練る樺太經濟懇談會▼男子就業禁止令趣旨徹底説明會開催▼「轉廢業美談佳話」募集▼【經濟日誌】自十二月二十五日至一月二十五日▼企業整備相談所開設▼【商工業關係法令】自十二月二十六日至一月二十五日▼【餘録】

通巻第130號 (1944.3.25) /全16頁

▼【時言】時艱打開の途▼「研究論文」募集▼昭和十八年度に於ける本會の事務,事業▼本會「總代」決定▼轉進者壮行會計畫▼樺太小賣業整備要綱に就て(常務理事 下出繁雄)▼被服補修更生を課題:懇談會を開催▼樺太小賣業整備共助金給付要綱▼小賣業整備を中心に全州商組理事長會議開催▼炭礦轉進者受入要綱▼轉農者指針▼企業整備相談所規定▼創意考案品懸賞募集:神奈川縣經濟會で▼第一回樺太經濟懇談會開催▼桶桶製造業機構整備に:本會の意見具申▼炭礦轉進受入供出懇談會▼小賣業整備に伴ふ受入側炭礦視察團派遣▼商工組合實務講習會▼神商に經營計算講習所▼昭和十九年度經費收支豫算▼昭和十九年度經費賦課徵收方法▼第一回總體會開催▼轉業促進「婦人部大會」▼農業轉進者へ贈る血と汗の体験談▼小賣業整備「質疑應答」▼轉業美談佳話募集:樺太商工經濟會,樺太新聞社▼支部便り▼【經濟日誌】自一月二十五日至二月二十五日▼【庶務日誌】自十二月二十六日至二月二十五日▼【商工業關係法規】自一月二十六日至二月二十五日▼【最高販賣價格】自一月二十六日至二月二十五日▼樺太商工經濟會圖書館發足▼茶殻回収運動展開▼【餘録】

通巻第131號 (1944.4.30) /全12頁

▼【時言】有終の美を擧げよ▼謝類焼御見舞(樺太商工經濟會惠須取支部)▼經理統制令解説講習會▼女子職業輔導所(第二回事務学科)開設▼軍需會社法ブロック別講演,懇談會▼統制組合設立状況視察▼第二回經濟懇談會:決戦非

常措置へ建設案▼商工經濟會と商報の事業分野を畫定▼譽れの遺児に本會から土産▼炭礦勞務の實踐:落合商報の擧▼整備の隘路は何か▼小賣業整備關係資料輯録刊行▼轉進業者の便り▼樺太廳警察部主催:決戦經濟遵法運動展開▼煉製品一月二月生産高▼【資料】商工組合法施行に伴ふ組合機構整備▼板硝子販賣機構整備▼硝子製品關係統制組合改組▼農業方面轉進の入殖豫定地視察▼職別工事業統制組合設立打合會▼菓子關係組合機構に隣道當局の意嚮▼本會動報隊及び警護隊結成▼生産力の増強と勞働力(一)(竹田生)▼第一回北海,東北經濟懇談會 談話意見▼第一回女子職業輔導所終了者▼【庶務日誌】自二月二十六日至三月二十五日▼輸送力強化懇談會▼信用組合の取扱指示▼【經濟日誌】自二月二十六日至三月二十五日▼【商工業關係法令】自二月二十六日至三月二十五日▼【最高販賣價格】自二月二十六日至三月二十五日▼【餘録】

通巻第132號 (1944.6.6) /全12頁

▼噫 古賀元帥▼【時言】此の一戦▼官民總力結集体制の急務▼集團轉農各地に實現▼經濟懇談會定例幹事會▼輸送力強化對策:機帆船と倉庫を中心に▼特殊事情に適した樺太獨自の機構を(事務局長談)▼州内倉庫所有者を一丸:協會組織により運営連絡へ▼機帆船:北部運航に統合決定:六月より計畫輸送を實施▼樺太戦時生産増強委員會:本會より設置を提唱▼戦時生産増強本部設置▼全經兩部長會議▼戦時生産の増強へ:本會の協力事業▼州内産業經濟の情報蒐集網成る▼第三回支部事務長會議▼商工經濟會法施行規則中改正▼惠須取災害復興組合設立▼豊原女子職業輔導所第二回講習生▼大泊女子職業輔導所第一回修了生▼本會農園開く▼【官廳重要録事】經濟關係抄録:四月中▼統制會社一覽▼【最高販賣價格】自三月二十六日至四月二十五日▼蒲鉾の規格改正▼經濟關係罰則の解説講演會開催▼【經濟日誌】自三月二十六日至四月二十五日▼【商工業關係法令】自三月二十六日至四月二十五日▼【庶務日誌】自三月二十六日至四月二十五日▼轉業美談佳話募集▼【餘録】

通巻第133號 (1944.6.28) /全12頁

▼全國商工經濟會業務調查兩部長懇談會▼【時言】撃ちてし止まむ▼中小工業の戦力化へ▼二大重要調査を實施▼全經生産増強鍊成▼樺太小賣業整備完結:残る諸問題も一舉に解決へ▼末端配給機構の確立へ:本會で輿論の調査▼配給機

構整備懇談会▼州内統制組合設立状況▼北海道倉庫業統制組合発足:大泊に樺太支部を設置▼豊原管内轉進者壮行会▼中小工業實態調査實施▼統制組合研究(一):當然加入制度と出資の関係▼道樺經濟連絡協議会:今夏樺太に開催:東亞經濟懇談会北海地方委員会▼生産力増強と勞働力(2)(竹田生)▼經濟關係罰則の整備に關する法律とはどんなものか▼狙ひは貯蓄の増強に:改正臨時資金調整法▼女子職業補導所第二回修了生▼【豆知識】昭和十一年度以降我國租税印紙収入自然増収及増税額▼會計事務專攻科新設:女子職業補導所に▼昭和十八年度經費收支決算:自昭和十八年十月一日至十九年三月三十一日▼【官廳重要錄事】經濟關係抄録四月中了▼【最高販賣價格】自四月二十六日至五月二十五日▼【經濟日誌】自四月二十六日至五月二十五日▼【商工業關係法令】自四月二十六日至五月二十五日▼【庶務日誌】自四月二十六日至五月二十五日▼【餘錄】

通卷第134號 欠

通卷第135號 (1944.8.20) /全12頁

▼【時言】擊滅▼會員へ御注意▼戰時生産増強本部発足▼北海地方商工經濟會協議會第一回總會▼西村檢事正を圍んで經濟法規座談會▼珠算檢定試験實施▼末端配給機構の新課題▼簡素強力な統制組合へ:地區商組改組移行▼購買會・農業會等も加入:各地區配給統制組合設立に指示▼統制組合研究(二):統制規定の設定とその運用▼アザラシから潤滑油▼經濟調査委員會に聴く:恵須取・敷香:未開發資源の総合的戦力化へ(下出局長挨拶要旨)▼營々と開發進む:その後の幌内開拓挺身隊▼第二幌内開拓挺身隊の歌▼轉進者壮行式 知取▼保恵に轉農の第二陣▼追分開拓農村訓練所入所式▼樺太廳經濟部機構改革▼本會辭令▼本會役職員鍊成▼【解説】國債債券低價買漁りは何故禁止されたか▼【資料】小賣業整備二件フ國民更生金庫利用申込手續等▼十業種の資産評價基準裁定▼【官廳重要錄事】經濟關係抄録五月▼【商工業關係法令】▼【經濟日誌】自五月二十六日至六月二十五日▼【庶務日誌】自五月二十六日至六月二十五日▼【最高販賣價格】五・二六・一六・二五

通卷第136號 (1944.9.10) /全12頁

▼道樺綜合戦力の増強へ:北海地方商工經濟會協議會第一回定時總會▼全經藤山會長祝電▼行政協議會との連絡と勞務

の統制強化:樺太側の提議▼配給責任体制確立:修理更生部門を強化:北海道提案▼十九年度豫算・事業計畫決定▼空襲時に於ける道樺協力緊急対策に關する件▼各方面の隘路打開へ:懇談事項▼統制組合, 統制會社等の設立地區の適正化▼道, 樺輸送力強化:建議案として採擇決定▼臨席及出席者▼生産増強と空襲対策▼瞬時に争ふ戦力化:道樺經濟人の責務重大:行政協議會長▼資源の開發増産へ:大津長官▼北門の鎖鑰北海地方:唇齒輔車の關係を保持:二神開發社長▼大東亞交易論懸賞募集▼制度を刷新簡素化:改正製造工業原價計算要綱(1)▼經濟調査委員會に聴く(2):北方開發の意慾▼中小工場従業員に明朗和樂の夕▼十九年度發明奨勵費交付▼本會下出事務局長 開發總務部長を兼任▼船田氏, 全經理事長に▼【解説】勤勞動員行政機構は如何に整備されたか▼【豆知識】預金通帳の簡易再發行▼【官廳重要錄事】經濟關係抄六月▼【商工業關係法令】自六月廿五日至七月廿六日▼【最高販賣價格】六・二五・一七・二六▼【經濟日誌】自六月二十六日至七月二十五日▼【庶務日記】自六月二十六日至七月二十五日▼開拓推進隊便り▼補導所に拾ふ

通卷第137號 (1944.10.10) /全12頁

▼聖旨奉體^{マツ} 奮起せよ! 商工業者:本會速藤會頭謹話▼【時言】戰場態勢の確立▼施策要綱決る▼新會員の方々へ▼【特輯資料】州内商工組合一覽:九月現在▼樺太廳告諭第一號▼【官廳重要錄事】經濟關係抄七月▼樺太戦力充實強化協議會▼工業樺太の建設へ:電力事業發展の提唱▼制度を刷新簡素化:改正製造工業原價計算要綱(2)▼勤勞管理講習會▼一周年記念講演▼決戦の職場が求めている女性の力:さあ働かう勝つために▼機械實働率の向上に就て▼戰時地方金融經濟の本質▼商工組合に低利で融資:“極度資金制度”預金部資金にも適用▼【資料】配給統制組合 統制規程準則▼合格率六割強:珠算檢定試験終る▼相澤主事郷軍分會葬▼【經濟日誌】自七月二十六日至八月二十五日▼【庶務日誌】自七月二十六日至八月二十五日▼【餘錄】▼【最高販賣價格】七・二六・一八・二五

通卷第138號 (1944.11.10) /全12頁

▼本會の新使命に奇す:退任にあたりて(下出繁雄)▼本會發足一周年記念講演:勤勞意欲昂揚の方策(難波田春夫)▼野菜類配給機構整備:本會より意見具申▼輸送:州内の船主を統合:樺太機帆船株式會社設立へ▼海事諸法規:愈よ樺太に實

施▼謹啓▼決戦国民生活実践への途:最低生活の基準線 (S・T) /消費統制の制度を (K・S) ▼聖旨奉體 戦力の充實強化へ協議事項:運営の刷新と執務体制の強化/工業の振興と配給の適正化/労務統制の改善▼縣賞募集▼珠算能力検定試験合格者▼女子実務員能力検定試験 (京都商経会で) ▼【官廳重要録事】經濟關係抄九月▼【經濟日誌】自八月二十六日至九月二十五日▼【最高販賣價格】八・二六―九・二五

通巻第139號 (1944.12.10) /全12頁

▼【時言】必勝生産への垂示▼日用品交換幹旋▼鐵工業の再編成進む:各地區の状況▼生活と貯蓄:都市消費生活と貯蓄:貯蓄実績と目標額 (大藏省國民貯蓄局 氏家武) /消費生活と財政經濟:最低生活費の検討 (S・T) ▼【資料】企業許可令施行規則中改正▼【座談會】開拓農村轉進者:營農の體驗を叩く▼地區共販制の魁り:惠須取▼物資の補修機構を確立:全面的に更生活用へ:本會で懇談研究▼重要事項の検討に:審議室創設▼【庶務日誌】自八月二十六日至十月二十五日▼寸言▼決戦国民生活の頑敵:“闇”の根源を衝く:見よ此の實相▼闇と經濟警察▼生活必需品の修理活用状況調査▼創立以來一箇年間:本會業務實施事績概要▼會議と議件▼庶務・經理:昭和十九年十月一日現在▼落合▼【豆知識】貨幣超過▼【經濟日誌】自九月二十六日至十月二十五日▼【經濟關係法規類】▼【官廳重要録事】經濟關係抄▼【最高販賣價格】九・二六―一〇・二五

通巻第140號 (1945.1.10) /全12頁

▼年頭言 斷乎勝利を決せん (樺太商工經濟會々頭 遠藤實) ▼決戦の最唯中に (樺太廳長官 大津敏男) ▼樺太戰時經濟大學開設の提唱 (提唱者 佐藤薫) ▼戰陣▼本州經濟現状の検討:何が現在の隘路か:民間代表者の聲に聴く▼決戦施策の方向を:對官廳懇談會▼戰時經濟相談所開設▼開拓農村育成に:本會が連絡幹旋▼原價計算協會樺太支部設置:本會で賛助會員を募集▼使命の完遂を期す:本會發足第三年目を迎へて (常務理事 坂本金次) ▼噫, 特別攻撃隊:日本ニュースを見て▼樺太商工經濟會事務局員服務心得▼轉進業者は斯く戦へり:開拓農村建設の譜▼戰時經濟常識:纖維品の決戦動員▼衣服補修資材確保に:更生組合設立▼商工組合研究:試算表の面に現れた組合經理の諸問題▼製圖専攻科を開設:女子職業輔導課所に▼生必需品商上部機構を整備:樺太配給統制組合に一元化▼印判, 旅館, 桶樽三統組設立▼税務の御相談は日

本税務協會へ▼【經濟日誌】自十月二十六日至十一月二十五日▼【商工業關係法令】自十月廿六日至十一月廿五日▼【庶務日誌】自十月二十六日至十一月二十五日▼【最高販賣價格】一〇・二六―一一・二五▼【餘録】

通巻第141號 (1945.2.10) /全10頁

▼【時言】自給態勢の強化▼大津長官は語る “おらが樺太”: それちや, ホンノ茶呑み話を一席やませうか▼第五回樺太經濟懇談會▼規格は戦力だ:移動展を開催▼定款の一部變更:第二回本會總代會開催▼第三回支部事務長會議▼知取, 敷香商報の推進隊協議會▼本會定款改正:常務理事を理事長に:賦課金の賦課基準も變更▼電力使用の合理化指導へ:工場現地診断實施▼本州初の機帆船職員養成講習會▼鐵工業の整備:各地區の進捗状況▼本會本支部間の連絡強化:行事豫定, 事業報告月表を作製▼戰場議會を覗く:増税▼戰時經濟常識:土建勞務者の階級制▼【豆知識】軍需充足會社令▼複式簿記に就て:特に初心者のために▼【官廳重要録事】經濟關係抄十九年十一月▼商工組合の専門的指導機關:中央會樺太支部發足▼本會と緊密に連絡:獨自, 強力な性格と機構▼支部長に經濟第二部長:本會理事長が副支部長に▼謝類焼御見舞 (樺太商工經濟會眞岡支部) ▼【經濟日誌】自十一月二十六日至十一月二十六日▼【商工業關係法令】自十一月二十六日至十二月三十一日▼【庶務日誌】自十一月二十六日至十二月三十一日▼【最高販賣價格】一一・二六―一二・三一

通巻第142號 (1945.3.10) /全8頁

▼【時言】物價対策の方向▼東海岸だより▼調査並事務局連絡會議:道樺兩經濟會▼戦力直結の物價対策:本會答申▼【決戦隨想】法の問題 (小島定巳) ▼諸手續の簡素化▼自給へ, 自給へ 起ち上る工業樺太:新しい息吹を探る▼青年層の熱意を結集:新工業の振興報國へ▼鋸屑と糖の醗酵飼料▼野草や廢品總て活用▼商工組合中央會樺太支部:新年度の事業計畫▼本會職員中央會支部事務を囑託さる▼昭和二十年度本會經費:収支豫算と賦課徴収方法▼【官廳重要録事】 (經濟關係抄一月中) ▼開發挺身隊便り▼【豆知識】煙草と鹽▼【經濟日誌】自十二月二十六日至一月二十五日▼【商工業關係法令】自一月三日至二月二十五日▼【最高販賣價格】一, 三―二, 二五▼【庶務日誌】自一月八日至二月二十八日

通巻第143號 (1945.4.10) /全 8 頁

▼【時言】戦時経済機構の方向▼通貨の膨張▼旅客縮減に
 證明制:發行機關として本會指定▼鐵工業整備:三月を以て全
 州完了▼樺太陸上小運搬業統制組合:輸送の必勝態勢確立▼
 戦力増強:巡回修理奉仕團▼本會の海事法令研究会▼國民勤
 勞動員援護會:時局に呼應:事業を強化▼林産航空油「カバ油」
 ▼惠須取地區:小賣業者の特別措置▼魚菜配給業者の整備▼
 【經濟雜報】▼第六回樺太經濟懇談會/田澤博士の發表より:
 樺太の氣象特質に就て▼衣料補修共同受註所設置▼本會:二
 十年度事業計畫:産業經濟の自給自戦へ▼一億機動的配置へ
 ▼樺太商工經濟會理事總務部長辭任挨拶 (小原正義) ▼會
 社經理統制令▼酒類價格配給機構改訂説明會開催▼機帆船
 運航体制整備:計畫輸送に萬全:木協樺太支部設置▼戦災者の
 税金の減免は▼戦時物價對策への推進:戦時物價事務研究会
 設置▼新興工業紹介▼樺太にも施行さる海事諸法令▼尊き
 使命に巢立つ乙女へ:第四回女子職業輔導所開設▼勞務關係
 經濟違法懇談會開催▼【經濟日誌】自二月二十六日至三月
 三十一日▼【商工業關係法令】自二月二十六日至三月三十
 一日▼【最高販賣價格】三月▼懸賞論文入選作發表▼初の
 經理指導行ふ▼【庶務日誌】自三月一日至三月三十一日

3. おわりに

以上、「本資料」の目次を紹介しながら、そこから窺える豊原の商工業者の活動について若干の指摘をしてきた。折しも今年 2005 年は日露戦後の南樺太割譲を決めたポーツマス会議か

ら、来年 2006 年は樺太の日露国境を決定するために小樽で開催された樺太国境画定会議から、それぞれ 100 年の節目にあたる。これを期に、約 40 年に亘る日本統治下での在樺太日本人の活動について、その実態の解明が進むことを期待したい。その際に「本資料」が何かしらの手がかりとなるのであれば、筆者としても望外の喜びである。また、筆者も「本資料」を利用して樺太商工業者の活動を「団体研究」の組上にひきあげるべく分析を進めており、それについては別途発表の予定である。「本資料」を用いた樺太史研究の今後一層の進展を期待したい。

最後に、「本資料」の閲覧・複写・入手に際しては各方面に多大な便宜を図っていただいた。田中愼一教授 (北海道大学大学院経済学研究科)、荻野富士夫教授 (小樽商科大学)、平井孝典氏 (小樽商科大学百年史編纂室)、北海道大学附属図書館、北海道大学経済学部資料室、小樽商科大学附属図書館、滋賀大学経済学部附属経営経済研究所、山口大学経済学部附属東亜研究所、大分大学経済学部附属経済研究所、東京商工会議所図書室、の各氏・各機関には改めて厚く御礼を申し上げたい。また、体裁・分量からして異例とも言える本稿の、紀要への掲載を許してくださった本学部関係者にも深く御礼を申し上げる次第である。